



○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ決シマス、同時ニ其部ノ諸君ハツレ、補缺選舉ヲ行ハレシコトヲ希望シマス、尙其際請暇ノ件モ報告致シテ置キマシタガ、是ハ追認致シテ差支アリマセヌカ

○議長(大岡育造君) 又左ノ委員ヨリ請暇ノ申出ガアリマス、伊藤要藏君病氣ノ爲メ今二十七日ヨリ十日間、許可スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ許可スルニ決シマス——山本内閣總理大臣

(内閣總理大臣伯耆山本權兵衛君登壇)

○日向輝武君 議長、私ハ議員ノ請暇ニ付テ一言シタイデアリマスガ、花井卓藏、鵜澤總明兩君ハ立法部ニ於ケル重ナル御方デアリマスガ、此兩君ハ唯今朝鮮へ行ツテ内亂罪ノ辯護ヲ致シテ居リマスルガ……

○議長(大岡育造君) 唯今ハ許シテアリマセヌ

○日向輝武君 此請暇ニ付テ引續キテ御尋ヲ致スノテ、差支ナイト思ヒマス

○議長(大岡育造君) 唯今總理大臣ニ許可シテアリマス

○日向輝武君 總理大臣ノ御演說ノアトテ、私ハ總理大臣ニ質問ノ演說ノ通告ヲ今致シテ置キマス

○内閣總理大臣(伯耆山本權兵衛君) 諸君、本大臣ハ今回瑞ラズモ大命ヲ拜シマシテ、今日茲ニ諸君ト相見ユルノ機會ヲ得マシタルハ、實ニ本大臣ノ光榮ト致シマスル

トコロデゴザリマス、諸君、帝國ト列國トノ交際ハ曩ニ前内閣總理大臣ガ本議場ニ於

キマシテ開陳致シマシタル如ク、益親善ヲ加ヘ、英國トノ同盟ハ愈々鞏固ニ、日佛日

露ノ兩協約ハ益々實效ヲ收メツ、アリマスルノハ、諸君ト共ニ大ニ喜ブトコロデゴザリ

マス、行政及財政ノ整理ヲ致シマスルノ必要アルコトハ、前々内閣ノ當時既ニ之ヲ認メ

シテ、其實行ヲ企畫シツ、アルニ際シテ、當局ノ更迭ヲ見マシタ、本大臣ハ即チ其ノ計

畫ニ基キマシテ、更ニ調査ヲ遂ゲ、是ガ實行ヲ期セシテ居リマスル、大正二年

度ノ豫算案ハ行政及財政ノ整理ト相俟チマシテ、新ニ之ヲ編成スベキ筈デアリマス

レドモ、帝國議會ノ會期既ニ半ヲ過ギ、而モ新會計年度ノ開始モ剩ストコロ僅ニ一箇月

デアリマシテ、整理ノ結果ヲ具體的ニ豫算ニ實現スルコトノ出來マセヌノハ、誠ニ已ムラ

ザル次第デアリマス、即チ茲ニ撤回致シマシタル同一ノ豫算案ヲ、再ビ本院ニ提出

シマシタ、諸君ニ於ケレマシテモ現下ノ事態ニ察セラレマシテ、協贊ヲ與ヘラレシコトヲ

希望致スノテゴザリマス、現今ノ稅制ハ負擔ノ均衡ヲ得ザルモノ、其他整理ヲ要スル

點カラザルハ、既ニ久シク一般ノ認メテ居リマスルトコロデアリマス、即チ之ヲ整理致シ

テ其均衡ヲ得セシメ、又財政ノ許ス範圍内ニ於キマシテ、負擔ノ輕減ヲ圖リマスルコトハ、

現下ノ國情ニ照シマシテ其最モ緊切ナルコトヲ信ズルモノデアリマス、本大臣ハ行政及

財政ノ整理ト共ニ、更ニ必要ナル調査ヲ遂ゲマシテ、是ガ計畫ヲ立テシコトヲ期シテ居

マス、而シテ所得稅法ノ改正ハ、從來數々本院ノ議ニ上リ、其實行ヲ緩ウスベカラザル

トコトヲ察シマシテ、本會期中ニ於テ之ヲ本院ニ提出スルノ運ビト致シマス、本大臣ハ豫メ茲

ニ之ヲ言明致シテ置キマス、以上ハ本大臣ガ差當リ行ハントスルコトヲ、大要デアリ

マス、若夫レ産業ノ振興、其他國力ノ充實ニ必要ナル施設ヲ爲シ、兼テ施政ノ改善

ヲ圖ルコトノ如キハ、茲ニ特ニ之ヲ言明致サストモ、本大臣ハ須臾モ留意ヲ缺クコトナ

カレベキハ固ヨリ當然ノコトデアリマス、諸君願クハ本大臣ノ意ノ在ルトコロヲ諒察セラ

レムコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 高橋大藏大臣

○大藏大臣(男爵高橋是清君登壇) 諸君、私ハ大正二年度豫算及稅制整理ニ關シマシテ、茲ニ一言致シマスルコトハ最モ光榮ト致ストコロデアリマス、大正二年度豫算ハ、

既ニ内閣總理大臣ノ演說セラレマシタルガ如ク、新ニ行政及財政ノ整理ニ關スル計畫

ヲ立テ、之ニ依テ編成ヲ爲スノ、餘日ガアリマセヌタメニ、曩ニ撤回シタルモノニ何等

ノ變更ヲ加フルコトナク、本日再ビ之ヲ提出スルコトニ致シマシタルデアリマス、而シテ其

計數ニ關シマシテハ、既ニ諸君ノ了知セラレルトコロデアリマスルガ故ニ、私ハ茲ニ之ヲ

說明スルコトヲ省略致シマス、財政及稅制ノ整理ハ今日ノ最モ急務トスルコトデアリ

マス、私ハ專ラ其局ニ當ツテ、銳意之ヲ實行スルコトヲ期シテ居ル者デアリマス、而シ

テ所得稅法ノ改正ハ、其最モ急務ト要スルモノト認メマシテ、私就任ノ後、直チニ其調査

ニ著手ヲ致シマシタ、及フ限リ之ヲ了了ヲ致シマシテ、是ガ改正案ヲ本期議會ニ提出

致シマスルコトヲ期シテ居リマス、諸君願クハ現下ノ事態ニ察セラレ、政府ノ意ノ存スル

トコロヲ諒セラレ、協贊ヲ與ヘラレシコトヲ切ニ希望致シマス

○議長(大岡育造君) 犬養毅君

○犬養毅君 私ハ極ク簡單ナ質問デアリマスカラ此處カラ……

○議長(大岡育造君) 登壇ヲ望ミマス

(犬養毅君登壇)

○犬養毅君 總理大臣、大藏大臣ノ御演說ニ對シテ、極ク簡單ナ御問ヲ發シタウ存

ジマス、總理大臣ノ演說ハ大要ヲ御舉ゲニナリマシタガ、最モ遺憾ニ感ズルノハ國防

問題ニ付テハ、一點之ニ觸レラレナイト云フコトアル、最モ前々内閣ノ破壞サレタト云

フ原因ニナツテ居ル一箇師團問題ハ、如何ニナツタノアルカ、大正二年度ニ於テハ一切

之ヲ出サレヌモノト認メマスルガ、果シテ然ルヤ、若シ之ヲ出サレヌト云フナラバ、次年度

ニ於テハ一箇師團問題ハ又生ジテ來ルノアルカ否ヤ、何レニシテモ一箇師團問題、即

チ二箇師團増加ト云フコトアル此處ニ止メラレタト云フナラバ、其止メタト云フコトハ國防

ノ大體カラ割出シテ、陸軍ハ今日以上増加スルノ必要ナシト認メラレテ此増加ヲ止メラ

レタノアルカ、或ハ時ノ財政之ヲ許サズ、ツレ故ニ一時之ヲ止メル、併ナガラ少シデモ

ノ計畫カラシテ、陸軍ハ此上ニ増加スルコトノ必要ナシト認メラレルカ、或ハ財政ガ許シ

タナラバ又出サレルノアルカ、是ガ御問致シタイ、ツレカラモウ一ツノ問題ハ、官制ニ關係

シタ事アル、前々内閣ニ對シテ政友會ヨリ質問書ヲ提出セラレタ、其内ニ陸海軍ノ官

制、陸海軍大臣ハ現役大中將ニアラザレバ出來ナイコトニナツテ居ル、是ハ憲政運用ノ

上ニ差支アリト認メヤ否ヤト云フコトノ問ニ對シ、前内閣桂大臣ハ憲政運用ニ差支

ナイト云フ答辯ヲセラレタノアル、併ナガラ吾ハ事實斯ヤウナ官制ハ、憲政運用ノ上

ニハ非常ナ妨害ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ認メルノアル、現内閣總理大臣ハ果シテ此

儘ノ官制デ、現在及未來ニ憲政運用ノ上ニ一切差支ナイモノト認メラレヤ否ヤ、是デ

ゴザリマス、モウ一ツハ財政計畫ノコトニ關シテ、内閣ヲ造ラレタ其日マダ淺シ、是ハ何

處マデモ吾ハ其事情ヲ認メテ居リマスルガ、併ナガラ既ニ内閣ニ出テラレ其任ニ當ル

ルト云フ上ハ腹案ハアル筈アル、此行政財政ノ整理カラ生ズルトコロノ金額ハ、凡ソ

ノ位マデ整理シ出サレルト云フ御見込アルカ、而シテ其節減シ得タル中カラ減稅ニ向

ケラレル額ハ何ノ位ト云フ腹案ヲ持ツテ居ラレルカ、今日ノ御演說ニ依ルト云フト、所得

稅ハ舉ゲラレタノアルカ、其以外ノ諸稅ハ節減ハナサレヌ御積リアルカ、無論整理ニ

著手シテ愈々計算シ上ケタ後デナケレバ細カイ勘定ハ分リマスマイガ、其任ニ當ラレタ以上ハドノ位マデ節減シ得ルト云フコトノ大體ノ腹案、其節減シ得タ中カラ減稅ニドノ位向ケル、是ハ御分リニナラセ居ル答アルカラ、是ダケノ御答ヲ得タイノデアリマス

〔拍手起ル〕

〔内閣總理大臣伯鸞山本權兵衛君登壇〕

○内閣總理大臣(伯鸞山本權兵衛君) 諸君、唯今大養君ヨリノ二三ノ御質問ガゴザイマシタ、第一ハ増師問題ニ對スル問題デアルト考ヘテ居リマス、是ハ大正二年度ニ於キマシテハ、陸軍省所管ノ中ニ計上シテゴザイマセヌノデアリマス、然レドモ國防ノ事タル單純ニ此演壇ニ於テ、將來ニ對シテ詳カニ茲ニ御答スルト云フコトハ、甚ダ困難ヲ感ズルノデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒ、重ネテ又之ニ對シテハ御書面デモ出シテ下サルト、慎重ニ慎重ヲ重ネマシテ御答スルトニ致シタイノデアリマス、第二問ノ陸軍大臣ハ現役ノ大將ニアラザレバ出來ヌガ、是ハ憲政運用上ニ差支アリヤ否ヤ、前内閣ニ於キマシテハ之ニ對シテ憲政運用上何等ノ差支ナイト云フ答辯デアッタガ、此内閣ハ如何ト云フコトデゴザイマス、是亦重大ナ問題デゴザイマスニ依テ、今申上ケマシタル如ク、等シク書面ニテ御尋ネ下サルコトヲ偏ニ希望致シ、併セテ丁寧ニ又御答ヲ(一ノウ)「ト呼フ者アリ」致シタイと思フノデアリマス

〔マダ硬シテ居ルテナイカ「ト呼フ者アリ」

〔大藏大臣男爵高橋是清君登壇〕

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 唯今大養君ヨリ御質問ノ、一番ノ末段ニアリマシタ即チ行政財政ノ整理ニ依テ節約シ得ルトコロノ金額ハドノ位ノ豫定デアルヤ、又ソレヲ減稅ノ方ニハドノ位、用ヒル積リデアルカ、又所得稅ダケハヤルト言ウタガ、後トノモノハドウスルノカト、斯ウ云フ御尋デアッタト記憶致シマス、無論前々内閣ニ於キマシテ、所得稅、營業稅、其他取引所稅等ノコトガ明言サレテアリマシタガ、ヤハリ其趣意ニ依テ斷行シテ行ク覺悟デゴザイマス、故ニ此所得稅ノ調査ガ濟ミマス、直ニ次ニハ營業稅ノ調査ヲ取急イデ致シマシテ、即チ出來得ベクニ此議會ニ提出スルノ覺悟ヲ以テ、調査ヲ晝夜兼行急ガ積リテゴザイマス、而シテ其金額ニ至リマシテハ、前々内閣ノ取調ベノ草稿ニ依テ見マス、諸稅合セテ又鹽價ノ引下グテ合セテ彼是九百萬圓前後ノ數ニ上ボツテ居リマスガ、此金額ニ至リマシテハ詳細ニ取調ベタ上テナケレバ明言ハ出來マセヌノデアリマス

〔腹案ヲ言ヘ「ト呼フ者アリ」

○大養君 ヲレデハ山本總理大臣ニ求メテ置キマス、殊ニ書面デ質問ハ出シマセヌ、唯今質問致シマシタコトガ、重大ナ問題デ御即答ガ出來ナイト云フ御考デアラナラバ、餘裕ヲ與ヘマセウ、書面ハ別ニ出サナクテモ私ガ茲ニ述ベタコトニ對シテ二日ナリ三日ナリ御考ガ極マリ次第、最モ早イ時間ヲ以テ御答ヲ願ヒタイ(拍手起ル)

〔島田三郎君登壇〕

○島田三郎君 諸君、是ヨリ内閣總理大臣ニ特ニ御質問ヲ致シマス事柄ハ、甚ダ簡單ナルモノデアリマス、併ナカラ其事柄ハ極メテ重大ナルモノト本員ハ確信致シマス、其明白ナルガ故ニ、御答モ亦明白ニ承リタイト云フコトヲ特ニ此處ニ申シ置キマス、本員ノ見ル所ニ依リマス、何レノ内閣モ皆此事ニ就テハ嚴正ニ考ヘラレナケレバナラヌ事デアリマスガ、特ニ政友會ノ御方ガ前内閣ニ向テ望マレタコトノ事柄デアリマスカラ、唯今ノ時機ニ當テ明白ニ此事實ヲ天下ニ知ラシメテ、天下ノ人ヲシテ安心スル

ヤウニ致シタイと思フノデアリマス、是ハ上下共ニ同一ノ感ヲ懷イテ居ルトコロノ重大ナ問題デアリマスガ、即チ宮中ト府中ノ關係、宮内官ト政黨ノ關係デアリマス、本員ノ知リ得ル限リニ於テ、唯今内閣ノ椅子ヲ占メラレテ居リマストコロノ一人ノ御方、閣員ニアラザルモ、政府ノ重職トシテ椅子ヲ占メラレテ居ル一人ノ御方ガ、宮中顧問官ヲ兼任シテ居ラレルト云フコトハ、如何ナル次第第二現内閣ハ考ヘラレテ居ラル、カ、之ヲ承リタイノデアリマス、宮中府中ノ別ヲ明カニスルト云フコトハ、憲政ノ下ニ立ツテ最モ嚴正ニ見ナケレバナラヌと思フ、更ニ政黨ノ發達ニ隨ツテ、愈々宮中ト政黨ト其關係ヲ明白ニ致サナケレバナラヌト云フコトハ、國ヲ思フコトノ人ノ同一ナル觀念デアリマス、若シ一方ニ新ニ起ルトコロノ力ガ強クナリマシテ、是ガ宮中ニ關係ヲ持ツト云フコトニナリマスレバ、國ニ取ツテ重大ナル事柄デアリマス、唯今述ベタコトノ事柄ヲ、事實ニ當テ見マス、奧田文部大臣ハ宮中顧問官在官デ居ラレマス、此宮中顧問官デ居ラレテ御方ガ、在官、即チ現在ノ椅子ヲ占メラル、ニ先ツテ、政友會ニ入黨セラレテ居ラレマスガ、是ハ如何ナル關係ヲ此間ニ於テ現内閣ハ有セラレテ居リマスカ、之ヲ承リタイノデアリマス(尙大ナル質問ガアル)「ト呼フ者アリ」宮内官ガ政治ニ關係スルト云フコトハ、勿論憲政ノ下ニ於テ言ハスモガナ、許スベカラザルコトデアルト本員ハ思ウテ居リマス、抑々宮中顧問官ハ名譽職デハナイノデアリマシテ、宮内省官制ノ第二十一條ニ顧問官ト云フモノヲ掌ルコトコロノ重キ官吏デアリマシテ、此御方ガ大臣ノ椅子ヲ占メラレテ居ル、事實宮中ノ關係ヲ付ケラレテ、自ラ政友會ニ入會セラレタト云フコトハ、宮中ニ官ヲ有シテ居ル者ヲ、現内閣ハ政治ニ關係スルコトヲ許サレ、更ニ政黨ニ入ルコトヲ許サレト云フ、此通則ヨリ明ニ認メラレタノデアリマスカ、之ヲ承リタイノデアリマス(拍手起ル)錦鶏間祇候ノ如キ名譽職デナイト云フコトハ、唯今本員ノ述ベタルコトノ明文ガアリマスルカラ、純然タル宮内官デアリマス、大臣タル者ガ政黨ニ入り、大臣タル者ガ宮内官ヲ兼ル、此事ニ付テハ宮内官ヲ兼ルコト云フコトニ付テ、如何ナル關係ヲ有テ居ラレルカ、是ハ第二ノコト、致シマシテ、宮中顧問官ガ直ニ政黨ニ入ラレルト云フコトヲ認メラル、ノハ、大臣ニシテ然リ、重要ナルコトコロノ椅子ヲ占メテ居ルトコロノ人ニシテ然リ、然ラバ宮内ニ席ヲ有テ居ラル、トコロノ大小ノ官吏ハ、舉ゲテ政黨ニ關係シ、政黨員トナルコトヲ許サレト云フ、現在ノ内閣ハ見解デアラヤ否ヤ、之ヲ承リタイノデアリマス(拍手起ル)是ハ政黨ノ區別ヲ問ハズシテ、定メシ滿場ノ御方ガ重大事件デアルト云フコトヲ、認メラレラアラウト思フ、宮中府中ノ別ヲ紊ルコトコトハ、政黨ト宮廷トノ間ヲ紊ルコトコロノ一大事件デアルト本員ハ言ハナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手起ル)知ラズシテ爲サレタト云フコトニ至ツテハ、決シテ私ハ之ヲ許スコトハ出來ナイ、奧田君ハ法律ニ精通セラル、トコロノ御方デアル、承ルトコロニ據レバ宮廷ノ諸規則ヲ調ベラレタトコロノ御方デアル、唯今ノ衆議院選舉法ハドウ書イテアリマスカ、其第十五條ニ宮内官ハ、被選權ヲ有スルコトヲ許シタイノデアリマス、何故ニ宮内官ニ被選權ヲ許サナイノデアルカ、是ハ宮内官ヲ許シテ間接ニモ政治ニ關係セシメズト云フコトコロノ、宮中ト政治トノ區別ヲ嚴格ニ示ス一大簡條デアルト本員ハ思ウテ居リマス、被選權ヲ許サルトコロノ宮内官ヲシテ、直接政黨員ヲラシメテ、之ヲ問ハザルト云フコトニ至ツテハ、如何ナルコトデアルカ、承ルトコロニ據レバ其政黨ニ入ラレタ手續ニ於テ、唯今ノ總理大臣山本伯モ、ヤハリ連帶シテ其席ニ居ラレタカノ如ク新聞ハ傳ヘテ居リマス、然ラバ現内閣ハ宮廷ヲ舉ゲテ政黨ニ入ラシムルモ亦可ナリト云フ通則ヲ御認メニナツタノデアルカ、之ヲ承リタイ、併ナガラソレハ許サナイト云フコトデアレバ、現在ノ事實ヲ如何ニスルカ、之ヲ承リタイ、更ニ法制局長官ヲ承ツテ居ルトコロノ岡野君ハ如何デアルカ、今日ノ報告ニ據ルト、確ニ此

法制局長官ハ政府委員トシテ新ニ命ヲ受ケテ、此處ニ御出席ニナルベキ順ニナッテ居リマス、此方モヤハリ宮中顧問官ノ一人ナル、政府ノ法律關係ニ主腦ヲ占メテ居ラレル此方ガ、是モ可ナリト云フ御意見見アッテ、御自身モ亦宮中府中ノ別ヲ問ハザル見解デアルカ、之ヲ承リタイ、併ナガラ本員ハ岡野君ニ問ハナイ、又奥田君ニモ問ハナイ、内閣ノ主腦ヲ持ッテ居ラレ、トコロノ總テヲ總管シテ居ラレ、トコロノ總理大臣山本伯ニ、直接ニ御意見ヲ承リタイノデアリマス、事實斯ノ如クアレバ、更ニ御調ハ要サナイノデアアル、書面ヲ以テ差出スニモ及バナイノデアアル(拍手起ル)時日ノ餘裕ヲ與ヘルニ及バナイノデアアル、ソレ故ニ全責任ヲ有ッテ居ラレ、總理大臣ヨリ、此席ニ於テ更ニ之ニ直接關係アルトコロノ御方ノ列席セル此處ニ於テ、即刻ニ御答ヲ得ナケレバナラヌ、宮中府中ノ別ヲ察リ、政黨ト宮廷ノ關係ヲ混亂スルト云フコトハ、一大事デアッテ、一日モ猶豫ナク御明答ヲ與ヘラレムコトヲ、切ニ希望スルノデアリマス

(文部大臣法學博士奥田義人君登壇)

○文部大臣(法學博士奥田義人君) 唯今島田君ヨリ、總理大臣ニ對シテノ二箇條ノ御質問ガアリマス、私ヨリ之ヲ御答致シマスルハ僭越デアッテ、定メシ御不満足デアラウト考ヘマスレドモ、事自身直接關係有ッテ居ルコト、思ヒマスルカラ、私ヨリ答辯スルコトヲ御許シアラムコトヲ希望致シマス、私ガ宮中顧問官デアッテ、且ツ文部大臣ヲ兼テ宮中府中ノ關係ヲ察シテ居ル、宮中顧問官ハ名譽職デアナイ、斯ウ云フ御話デアリマス、是ハ一應申上ケテ置キマスルガ、宮中顧問官ハ名譽職デアリマス、俸給ハ一文タリトモ實ニ居ルモノデアリマス(拍手起ル)然レドモ宮中顧問官ハ宮内官ニ相違ハアリマセヌ、文部大臣ノ任命ト共ニ、此御許ヲ願フコトニ手續中ニ相成ッテ居リマスカラ御承知ヲ……

○島田三郎君 更ニ承リマスガ手續中デアレバ、現在ハ尙ホ宮内官デアルト思ヒマスガ

○文部大臣(法學博士奥田義人君) ソレハドウモ致方ガナイ、何分早急ナコトデア……

○島田三郎君 然ラバ政黨ニ御入りニナツタト云フノハ……(桂公ハ如何)ト呼フ者アリ

○文部大臣(法學博士奥田義人君) ソレカラ御承知ヲ乞イタイノハ、制度調査ノコトニ付テ關係有ッテ居リマシタ私ノコトデアリマスルカラ、其始末ヲ著ケズ無責任ニ逃ゲル譯ニハ參リマセヌノテ、其始末ヲ著ケルタメニ遲クナツタダケノコトデアリマス

○島田三郎君 ソレナラバ尙ホ……

○議長(大岡育造君) 島田君暫ク御控ヘナサイ、唯今文部大臣ノ答辯中デアリマス

○文部大臣(法學博士奥田義人君) 第二ニ法制局長官ガ、宮中顧問官ヲ兼任シテ居ルト云フ御話デアリマス、是ハ宮内官ト政府ノ役人ト便宜相互ニ兼任スルト云フコトガ勅令ニ於テ認メラレテ居リマシテ、現在ニ於キマシテモ、法制局參事官ガ宮内官ヲ兼テ居ル兼テ居ル人モアリマス、是等ノ人ハ事務官デアリニ依リマシテ、蓋シ斯様ニ相成ッテ居ルコトナリト信シテ居リマス、御承知アラント云フヲ希望致シマス

(拍手起ル)

○島田三郎君 今一應質問ヲ致シマス

○議長(大岡育造君) 島田三郎君

○島田三郎君 唯今名譽職デアルト仰シヤイマシタガ、名譽職デアルト云フコトノ區別ヲ承リタイノテ、第一ニハ手續ヲ……

(ノウ)ト呼ビ又「無用々々」ト呼フ者アリ

○島田三郎君 御黙リナサイ、本員ハ許可ヲ得テ居リマス

(登壇シ給ヘ)又「學校ニ往ケ」ト呼フ者アリ(議場騒然)

○島田三郎君 ソレナラバ登壇致シマス

(島田三郎君登壇)

○島田三郎君 斯様ナル大切ナルコトヲ不分明ニスルト云フコトハイケナイト思ヒマス、(「三百」ト呼ビ又「ヤルベシ」ト呼フ者アリ)再ビ奥田君ニ對シテ申上ケマス(「無用」ト呼フ者アリ)無用デアリマセヌ

○議長(大岡育造君) 靜肅ニ……

(無用々々ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御靜ニナサイ、唯今質問中デアリマス(「無用」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君 無用デアリマセヌ、議長、制止ナサイ、議長ガ制シテ居リマスカラ、本員ハ此事ノ明白ナル御答ヲ得ルマデハ、一時間デモ二時間デモ立ッテ居リマス

(笑聲起リ「三百」ト呼ビ又「無用」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君 奥田君ハ不都合ナル答ヲ與ヘラレタト本員ハ明言致シマス、唯今手續中デアアル、サウ致シマスルト以來ハ官吏ハ辭表ヲ出シマシテ、手續中デアレバ其官吏ガ同時ニ民間ト商業ヲ營シテ宜シイノデアリマスカ、手續中ニ(「ヒヤ」ト呼フ者アリ)ソレト同シ論法ヲ以テ(「三百論」ト呼フ者アリ)手續キノ著カナイ内ニ政黨ニ這入ッテ、宮中ノ人ヲシテ政黨員トラシムルト云フコトハ、現内閣ハ許サルノデアリマスカ伺ヒマス(「三郎」ニナレリ)ト呼フ者アリ(議長御鎮メ下サイ)

○議長(大岡育造君) 御靜ニナサイ、靜肅ニ……

(拍手起リ又笑聲起ル)

○島田三郎君 宮内官ガ政黨ニ這入ルト云フコトヲ、現在ノ内閣ハ許ス内閣デアルガ故ニ、斯ノ如キ重キ任ヲ荷ウテ居ルトコロノ宮内官ガ手續中デアルト云フ言葉ヲ以テ政黨ニ這入ラル、ナラバ、以來大小ノ宮内官ハ皆手續中デアルト云フ言葉ヲ以テ、日ヲ經ルマデ、ヤハリ其手續中ニ政治ニ干與スルト云フコトヲ許スト云フ現在ノ内閣ノ通則デアラナラバ、本員ハ之ヲ以テ再ビ適當ナ處置ヲ執ッテ、現内閣ニ向ッテ本員ハ發議ヲ致ス積リデアリマス、事實ハ斯ノ如キモノデアリマシテ

○議長(大岡育造君) 島田君、質問ダケニ了ッテ……

(「ヒヤ」ト呼ビ拍手スル者アリ笑聲起ル)

○島田三郎君 宜シウゴザイマス、併ナガラ事實ハ斯ノ如キモノデアリマス、宮内官デアッテ、政黨ニ此儘這入ッタ事實ハ明白トナリマシタ(「恥ヲ知レ」ト呼フ者アリ)ソレデ更ニ、モウ一ツ奥田君ニ問ウテ置キマス、名譽職デアルト云フコト、名譽職デアナイト云フコトハ、宮中ノ事務ヲ執ルト執ラザルトノ別デアルト本員ハ理解シテ居リマスガ、錦鶏間祇候ト云フヤウナ名譽ノ位地ニアラズシテ、宮内省官制ノ二十一條ニハ、臨時大臣ノ命ヲ承ケテ省務ヲ輔クトゴザイマスルカラ、本員ノ見ル所ノ名譽職ト云フモノトハ違フノデアリマス、純然タル宮内省ノ官吏デアッテ、宮内省ノ官吏デアル時ニ、政黨ノ駈引ノ都合ニ依ッテ政黨ニ入ラレタト云フ事實ハ、長ク速記録ニ記録シテ、官制ヲ紊ルコトヲ認メタル内閣ナリト云フコトヲ本員ハ斷言致シマス

(答辯スル必要ナシ)又「問題外」ト呼フ者アリ

(文部大臣法學博士奥田義人君登壇)

(拍手起リ又「總理大臣ヨリ答辯スベシ」ト呼フ者アリ)

○文部大臣(法學博士奥田義人君) 今一應私ヨリ御答致シテ置キマス、島田君ハ唯今役人ト會社ト重役ナドト一緒ニナツテモ構ハヌヤウナ(「被告ガカラ默レ」ト呼フ者アリ)御話ガアリマス、ソレハ甚ダ極端ノ御話デアリマシテ、役人ノ代リ目ノ時ニハ往々ニシテ

數日ノ間ト云フモノハイロク、重複ラシタコトノアリマスルノハ、從來ノ例デアリマシテ、必ズシモ其例ヲ襲フ譯デアリマセメケレドモ、是マテ皇室ノ制度ノ調査ノ事ニ與ツテ居リマシタカラ、其始末ヲ既ニ此一兩日中ニ付ケマシテ、御免ヲ蒙ルコトノ手續ヲ致シテ居リマスルカラ、ソレヲ御承知ヲ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 靜肅ニ……

○文部大臣(法學博士奥田義人君) ツレカラ名譽職ト云フコトハ、私ハ唯今宙アハ覺エマセメケレドモ、確カ宮内省ノ官制ニハ、宮中顧問官ハ名譽職トスト云フコトノ明文ガアルト覺エテ居リマス、(何條ニアリマス)ト呼フ者アリ(宙テ覺エマセメト御答致シマス、若シ御必要デゴザリマスレバ、アトテ取調ベテ御答ヲ致シマス)

○議長(大岡育造君) 奧繁三郎君

(奧繁三郎君登壇) (拍手起ル)

(總理大臣ト文部大臣ト同シ意見デアルカ總理大臣ノ答辯ヲ求ム)ト呼フ者アリ

○奧繁三郎君 諸君、本員ノ質問ハ、犬養君ノ第三項ノ質問ト殆ト同一デゴザイマス、(八百長カ)又同シナラヤメルベシト呼フ者アリ(第二十八議會ニ於テ「八百長」ト呼フ又默シ聽ケト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 靜ニ……

○奧繁三郎君 時ノ大藏大臣ガ、所得稅ノ外ニ營業稅ノ改正案並ニ鹽價ノ引下ヲ宣明セラレマシタ、此結果ヲ聽キタイノデアリマス、吾々ハ公言ニ對シテ今期議會ニ此事ヲ實行サレルコトヲ望ムノデアリマス、諸君、八百長デモ何デモ宜イ、(笑聲起ル)是ハ國民希望デアル、(ヒヤ)ト呼フ者アリ(此國民ノ希望ヲ吾々ハ實行スルコトヲ望ムノデアリマス、尙重ネテ此事ヲ政府ノ答辯ヲ求ムルノデアリマス(君等ノ主張ヲ政府ガ容レテ居ルノデハナイカ)ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 高橋大藏大臣

(大藏大臣男爵高橋是清君登壇) (拍手起ル)好イ取組(ト呼フ者アリ)

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 唯今奧君カラ、重ネテ稅政ノコトニ付テ御尋ガゴザイマシタ、國民ノ希望トシテ此營業稅及鹽價引下ノコトヲ實行ラ此議會ニ於テ望ムト、斯ウ云フ御質問ト拜聽致シマシタ、鹽價ノ引下ハ、之ヲ實行スルニハ法律モ要ラナイ譯デアリマスカラシテ、行政ノ處分テ出來ル範圍デゴザイマス(拍手起ル)就キマシテハ其手續キト財源ヲ早速ニ調査致シマシテ、之ヲ二年度中ヨリ實行スルノ決心ヲ持ツテ居リマス(拍手起ル)伺ヒノ通りト呼フ者アリ(又營業稅ハ此議會ニ法案ヲ提出スルノ覺悟ヲ以テマシテ、調査ヲ今急イテ居ル所デゴザリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス(拍手起ル))

○議長(大岡育造君) 增田義一君

(增田義一君登壇)

○增田義一君 本員ハ總理大臣並ニ大藏大臣ニ對シテ質問致シマス、總理大臣ハ、去二十一日首相官邸ニ於テ、上院議員ノ代表者ヲ御招キニナシテ、其ノ席上ニ於テ、施政

ノ方針トモ見ラルベキ御演說ガアツタノデゴザリマス、其際ニ近時我國民ノ國族打破、憲政擁護ノ運動ニ對シ、大分感情ノ激昂シタト云フコトヨリ、其行動ニ對シテ總理大臣ハ評シテ曰ク、近時我國民ハ動モスレバ支那ノ一ノ舞ヲ演ズルノ虞ガアル、斯様ナコトヲ明言サレテ居ル、此事ハ果シテ事實デアルヤ、支那ノ一ノ舞云々ト云フコトハ、支那國民ガ革命ヲ演ズテ居ル所ノ意味デアルカ、忠良ナル我國民ニ對シテ、革命思想アリト御認メニナシテ左様仰シヤツタノデアルカ、又其時ノ演說ニ、桂公ハ政友會ト情意投合妥協ヲ演シタ、之ヲ以テ範トスト御述ベニナシタ、所ガ二十二日ノ各新聞ニ據ラテ掲載シテアツタガ、翌日モ翌々日モ、正誤モ訂正モゴザリマセナシタ、五日隔テ後ニ、更メテ演說筆記ナルモノガ新聞ニ現ハレタ所ニ依ルト、此ノ二項目ガ取除ケラレテアル、果シテ何レガ眞デアルヤ否ヤ、國民ハ總理大臣トモアルベキ御方ガ、責任ノ地位ニ居ツテ述ベラレタコトガ、五日モ隔テ、演說ノ取替ガ新聞ニ出ルト云フコトハ、甚ダ不審ニ感ズル所デアリマス、何レガ是ナリヤ、明答アラントト希望致シマス、第二ニ唯今總理大臣ハ施政ノ演說中ニ、産業ヲ進歩シ、國力ノ充實ヲ圖ルト云フコトヲ、御述ベニナシテ居リマスガ、今日日本ノ産業ノ發展ヲ阻害シテ居ルノハ何デアルカ、惟フニ不自然ナル物價騰貴、此ノ物價騰貴ハ言フマデモナク、兌換券ノ増發、而シテ其ノ増發セラレタル兌換券ハ、伸縮力ヲ失ナシテ居ルノデアル、而シテ在外正貨、政府ノ所有セラル、正貨、日本銀行ノ所有セラル、正貨、之ヲ引當ニ兌換券ガ出テ居ル、而シテ輸入超過ノタメニ正貨ガ出テ行クベキ等ノ所ニ、在外正貨ガ國債借借ヲ決濟セラレタメニ、兌換券ノ伸縮力ヲ失ツテ居ルノデアル、是ガタメニ大ナル物價騰貴ノ影響ヲ受ケ、政府ノ費用ヲ増シ、民間經濟界ニ於テモ生産費ヲ增加シテ困ツテ居ルノデアル、此變則ナル政策ハ全廢セラレル見込アリヤ否ヤ、尤モ新大藏大臣ハ兌換券ノ多キコトハ物價ニ關係ナシト云フ、一世ヲ驚カス明論ヲ説カレタ(「明論ニアラズ愚論ナリ」ト呼フ者アリ)メ、反對ニ迷フト云フデアアルカモ知レタ、是マテ大藏大臣ハ在外正貨ヲ取寄セル所ノ運賃、保險料ガ不經濟デアルト云フコトヲ、何處カテ御述ベニナシタガ、其正貨ノ輸入又輸出スル所ノ運賃保險料ノ損ト、此變則ナル制度ノタメニ國家及ヒ民間共ニ受クル所ノ損失ノ輕重大小何レニ在ルト思ヒナサルカ、又其在外正貨ハ幾ラアルカ、之ニ對シテ明答アラントト希望致シマス

○議長(大岡育造君) 山本總理大臣

(內閣總理大臣伯耆山本權兵衛君登壇)

○內閣總理大臣(伯耆山本權兵衛君) 唯今增田君ヨリ三箇條ノ質問ガゴザイマシタ、第一ノ御質問タルヤ、過日總理大臣官邸ニ於キマシテ、貴族院ノ一部分ノ御方々ト御話ヲ致シマシタル事柄ガ、翌日ノ新聞紙上ニ現ハレテ居ル、其要點ヲ舉ゲレバ政治上一ノ活動ヨリ遂ニ常軌ヲ逸スルノ虞ガアル、此儘テ行ツタナラバ、或ハ支那ノ一ノ舞ヲシナイカト云フヤウナコトガ、アツタヤウノ意味デアルヤウニ考ヘマス、諸君、今增田君ハ新聞紙ニ若シ誤リガアツタカラ、果シテハ事實デアラウト云フ如キコトデゴザイマス拘ハラズ、其儘放テ置イタカラ、新聞紙上ニ最モ重キヲ置ク一入デゴザイマス、然レドモ內閣組織モ常ニ諸君ト均シク、新聞紙上ニ最モ重キヲ置ク一入デゴザイマス、然レドモ內閣組織以來諸事複雜ヲ致シテ、ナカク、諸般ノコトニ對シマシテ、總テ注意ヲ致スト云フコトガ間、脱ケルコトガゴザリマシテ、然レドモ新聞紙上ニ現ハレテ居リマス所ノモノハ、貴族院ノ諸君ニ御話致シマシタルコト、マルテ違ツテ居ルノデゴザリマス(ノウ)ト決シテ此ノ議場ニ向ツテ問達ツタコトハ申シマセヌ(拍手起ル)又新聞紙上ニ現ハレテ居ル事柄ヲ直チニ此議場ノ問題ト致シマシテ、露骨ニ申シマスレバ答辯ノ限リテハゴザリマセメケレドモ、誠意ヲ以テ御質問デゴザリマスカラ、一言申述ベルノ必要アリト、信ズルノデゴザリマ

官報號外 大正二年二月二十八日 衆議院議事速記第五號 奧繁三郎君ノ質問演說 山本總理大臣ノ答辯

ス(拍手起ル)斯ノ如キ言ハ、決シテ爲シタコトハゴザリマセヌ、左様御承知置キニナリタイ、第二條ノ情意投合ト云フコトモ、誠ニ摸範アルカラ、之ニ則リタイ、是亦ゴザリマセヌ(拍手起ル)左様御承知置キニナリタイ、又本日此議場ニ置キマシテ申述ベシタル事柄ニ對シテノ御質問ハ、事重大ノ事デゴザリマスカラ、尙ホ篤ト熟考ヲ重ネマシタ末、便宜ノ場合ニ於キマシテ開陳スルコトデゴザリマスカラ、左様御承知置キヲ願ヒタイ

○議長(大岡青造君) 高橋大藏大臣

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 唯今増田君ノ第三ノ御質問ハ、物價、在外正貨、

此二ツノ問題ト拜察致シマシタ、又嘗テ私が物價騰貴ニハ通貨ノ膨張ハ何等關係ガナイト申シタコトヲ御聞キニナシタ見エマシテ、(ツレバ聞キタイデス)ト呼フ者アリ)ツレバ尋ネタイト云フコトデアリマス、是モ其當時銀行通信録ニ筆記シタモノガ出テ居リマス如ク、決シテ何等ノ關係ガナイト申シタコトデアリス、此物價騰貴ノ原因ヲ爲スモノハ種々様々ナ關係ガアツテ、世ノ中ニハ單ニ物價騰貴ノ原因ヲ爲スモノハ通貨ノ數量アルト簡單ニ論ジテ、之ガ爲ニ多ク世上ヲ誤リハセカ、銀行者タルモノハモット深ク研究シテ、此物價騰貴ノ原因ヲ論スルナラバ、事實ニ付テ研究ノ上述ベテ貫ヒタイト云フ希望ヲ以テ、話シテ致シタコトデアリマス、此物價騰貴ノ原因ニ付キマシテハ、百有餘年以來歐米ノ實業家モ經濟學者モ常ニ論ジテ居ルコトデ、未ダニ是レナラバト云フ解決ガ出來テ居ラナイ、ツレバ此經濟社會ノ状態ガ時々刻々變化シテ居リマス、人智ノ進ムコト、發明ノ力、運輸交通ノ開ケテ往クコト、新規ノ殖民地等ニ事業ノ起ルコト、サウ云フ關係ハ日ニ進歩シテ往クタメニ、一年トシテ世界ノ經濟ノ状態ガ動カズニ同ジ有様デアッタト云フコトハナイデアリマスカラ、學者ガ其時ノ事實——多クハ過去ノ事實ニ就イテ研究ラシテ、之ヲ未來ノ事或ハ(講釋ハイラヌト呼フ者アリ)成ルタケ短クヤリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ此處デ以テ物價ノ事ヲ充分ニ御答スルコト云フナラバ、或ハ六箇月モ七箇月モ掛ルカモ知レナイ(分テ居ル)又ハ在外正貨問題デス)ト呼フ者アリ)在外正貨ハ如何ニシテ此在外正貨ガ出來タモノデアルカ、其事ヲ御研究ニナルト直チニ分カルノデス、日本銀行ガ持テ居ルコトノ在外正貨ハ、必ズ内地ニ於テ兌換券ヲ發行シテ以テ買ッテ在外正貨デアリマスカラ直チニ是ガ正貨準備ニ入ルベキモノデアル、併シサウ致シマシテハ、經濟社會即チ金融社會ノ調節ヲスルコトヲ怠ルコトニナリマスカラ、——金融社會ノ波動ガ大キクナルカラ、時ニ因テ此兌換券ヲ發行シテ出シタ正貨ヲ準備ニ入レズニ、此市場ノ金融ヲ調節シテ往クコト云フヤウナコトニナツテ居リマス、ツレカラ又、正貨ガアルカガタメニ物價ニ及ボスト云フコトハ直接見出サナイ(簡單)又ハ「明瞭」ト呼フ者アリ)此位デモウ……

○議長(大岡青造君) 片岡直温君

○片岡直温君登壇

〔片岡直温君登壇〕  
〔簡單〕ト呼ビ又ハ拍手スル者アリ)  
○片岡直温君 昨ハ總理大臣並ニ大藏大臣ノ財政計畫ニ對シテ、質疑ヲ試ミタイト考ヘルノデアリマス(桂公ノ出シタノ同ジタト)呼フ者アリ)大藏大臣ハ豫算ニ對シテハ、一日撤回ヲ致シタガ、桂内閣ノ編製シタモノヲ、其儘提出致シタ、斯ウ説明セラレマシタガケデ、是等ノ内容ニ對シテ現内閣ハ如何ニ施設シテ行クト云フ御説明ハ更ニ無イノデアリマス、ツレ故ニ茲ニ言ヲ設テ質疑ヲ試ミタイト思フノデアリマス、此桂内閣ノ財政計

畫ニ依リマスルト、大藏證券ヲ發行スル最高限度ハ五千万圓ニ止ムルコトデアリマス、併ナガラ此豫算ヲ此儘實行致シマシタナラバ、五千万圓ノ大藏證券ノ發行制限高ヲ茲ニ止ムルコト云フコトデハ、到底仕賄ヒハ附カヌ管デアル、然ルニ現内閣ハ、之ヲ果シテ大藏證券ヲ五千万圓限度ニ止ムルコト云フ御考デアルカ、果シテ其御考デアリトスレハ、其不足ヲ生ズルモノニ向ツテハ、如何ナル方法ヲ以テ填補ヲナサルカ、斯ウ云フコトガ第一ニ御尋ネテ致シテ見タイト思フノデアリマス、思フニ現内閣ハ、此歲出歳入總額五億八千餘萬圓ノ中カラ、節減ヲ致サルデアラウト考ヘルノデアリマス、即チ其節減ヲスルコトコロノモノニ依テ大藏證券ヲ發行額ハ五千万圓ニ止ムルコトヲ得ルコト云フ御考デアラウカト推測スルノデアリマス、然ラバ其節減スベキコトノ金額ハ如何程デアルカ、其金額ヲ御明答ヲ願ヒタイデアリマス、總理大臣ノ財政計畫ニ對スル御説明ノ要點ヲ見マスルト、前々内閣ニ於テ計畫サレタコトコロノモノヲ踏襲シテ、尙ホ之ニ調査ヲ加ヘテ整理ヲ實行スルコト云フ御趣意ノヤウニ見エルノデアリマス、然ラバ前々内閣即チ西園寺内閣ニ於テハ、合計三千七百圓許リノ節減ヲシ得ルコトニナツテ居ルコトニ聲明サレテ居ルノデアリマス、此聲明ハ政友會ノ總會ノ當時ニ於テ、總裁シテモサレテ居ルデアラウト考ヘル、尙ホ此上ニ節減サレル御計畫ガアルナラバ、ツレバ併セテ同ヒタイノデアリマスガ、此三千七百圓ヲ假リニ節減スルコト云フ御趣意デアラナラバ、此三千七百圓ノ中ニハ事業ノ繰延ベモゴザリマセウ、廢止モ多少ゴザリマセウガ、是等ノ金ヲ節減スルカガタメニ又財源モ多少減ル管デアラウト思フノデアリマス、(ヒヤ)ト呼フ者アリ)然ラバ此三千七百圓ト云フ金ハ、財源ト見テ宜シイカ、又財源トハ見ラレヌ、ツレハ總體ノ節減額デアルト云フナラバ、其内財源ニ屬スベキ金額ハ、幾ラデアルカ、又ツレ以上ノ節減ヲナサルコト云フナラバ、其金額ガ凡ソ幾何デアツテ、其内財源ニ屬スルモノガ幾ラ程アルカト云フコトヲモ併セテ御説明ヲ願ヒタイデアリマス、ツレカラ此豫算ノ總額カラ吾ミガ考ヘマスルトコロハ、五千万圓乃至八千万圓ノ節減ヲナサルデアラザレバ、到底大藏證券ノ發行高ハ五千万圓ニ止ムルコト云フコトハ出來得ナイコトデアル、三千七百圓ノ節減ヲナサルシテモ、尙五千万圓ノ大藏證券ノ發行額デアレバ必ズ不足ヲ生ズルト考ヘル、然ラバ其不足ヲ如何ニ補填ヲナサルカ、カト云フコトヲ次ニ伺ヒタイ、其次ニ伺ヒタイノハ減稅ノコト、減稅ハ既ニ總理大臣並ニ大藏大臣ニ於テ所得稅ハ此議會ニ提出スル、而シテ營業稅並ニ鹽ノ價額ニ關シテモ成ルベク此議會ニ提出サレヤウニ取調ヲスルコト云フガ如クニ、大藏大臣ハ御説明ニナツタヤウニ考ヘル、果シテ然ラバ其所得稅ノ減稅ハ幾ラノ減額デアルカ、ツレカラ營業稅並ニ鹽ノ價額ヲ引下ゲル所ノ價額ハ如何程デアルカ、是ハ調査ヲ進行シナケレバ分ラヌト云フガ如キ、御答ヲ得ルコトヲ恐ル、ノデアリマスガ、凡ソ今日ノ我國ノ財政状態ニ於キマシテハ、先以テ節減シ得ルコトノ金額ヲ極メテ、而シテ其節減サレタ財源ノ中ニ於テ必要ナルコトコロノ支出ニ充テ、而シテ此減稅ニ幾ラ充テルト云フコトヲ頭ニ押ヘルニアラザレバ、調ベテ以テ稅ヲ減サウナド、云フコトハ眞ニ空想ニ屬スルデアラウ、若シ又節減ヲシテ宜イト云フ論カラ言ハバ、稅其モノハ何レモ實ハ節減ヲシテ欲シイモノニ外ナラヌデアアル、唯如何セシ財源其モノヲ得ナイ爲メニ、何レモ辛抱シテ居ルコト云フ譯デアアル、然ラバ此所得稅ノ節減ニ對スル凡ソ之ニ充當スベキ金額、並ニ營業稅ノ改正ニ對スル之ニ補充スルコトコロノ金額、又鹽ノ代價、若シ之ニ尙加フルニ取引所稅ノ如キモノヲ以テスルナラバ、ツレニ充ツル金額ハ如何程ヲ以テ其標準内ニ於テ修正スルコト云フコトデアナケレバ、ツレハ實行シ得ベキ信ヲ措クコトモ出來ナケレバ、又實行シ能ハザルモノト信ズルノデアリマス、ツレカラ右ニ御尋致シタコトコロノ減稅ヲ實行ナサル、場合ニ於テハ、此豫算ニ對シテ必ズ總

高ヲ幾ラ減ス、其幾ラ減ス中ニ於テ財源ニ屬スル金額ガ幾ラアル、其幾ラノ金額中、ドレドレノモノヲ以テ總額幾ラシクモ、此減稅ニ充テルト云フ財源ノ御明示ヲ與フルコトハ、是ハ當然デアラウト思フ、而シテ其財源ヲ得ル方法ヲ併セテ御明示ニナケレバナラヌ

管デアラウト考ヘル、故ニ其財源ヲ豫算上ニ於テ作出ス其御考ハ、如何ニナサル、カト云フコトヲ伺ヒタイト思フノデアアル、而シテ其財源ノ既ニ充當スル、即チ一面カラ言ヘバ財源ノ奪ハル、金額ハ何程デアアルト云フコトヲ、茲ニ御明示ニナルト同時ニ、從ツテ第一ノ御尋ヲシタトコロノ五千万圓限度ニ止メル、大藏省證券ハ果シテ五千万圓デ足ルカ、又之ニ足ラヌトスレバツレハ如何ニ御處置ニナルカト云フコトヲモ、茲ニ併セテ御答ヲ得ナ

ケレバナラヌデアリマス、若モ大藏省證券ヲ五千万圓ノ限度ニ止メ、尙且ツ其内ニ於テ減稅ヲモ行フト云フコトデアリマスレバ、減稅ノ金額ニモ依リマスルガ、公債償還ハ恐ラクハ出來得ナイコトナリハセヌカト思フ、公債ハ此豫算ノ計畫ニ依リマスレバ五千万圓ハ償還スルコトニナツテ居ルデアリマスガ、果シテ大藏大臣ハ右御尋ヲ致シマシタ金額ヲ充當シテ、尙大藏證券ヲ五千万圓ニ止メ、而シテ國債證券ヲ五千万圓償還ナサル御考ガアルカドウカ、又國債證券ヲ償還スルト云フコトハ、一方ニ經濟界ノ調節ヲ圖ルト云フコトヲ最モ重キヲ置カケレバ、ナラヌ、然ラバ經濟界ノ伸縮ノ最モ伸縮ヲ現ハスベキ時期ト云フモノハ明ニ定マツテ居ル、然ラバ其時期ニ於テ調節ヲ圖ルタメニ

之ノ償還ヲ要スルデアリマス、然ルニ前内閣以來、前々内閣以來不幸ニシテ其實質ヲ能ウ見ナイデアリマス、將來ニ於テハ即チ現大藏大臣ニ於テハ此國債償還ヲ、民間ノ經濟調節ヲ圖ルノ適切ナル時期ニ於テ、必ス償還ヲ御實行ニナルヤ否ヤ、ツレヲ伺ヒタイ、ツレカラ次ニハ犬養君ヨリ御尋ニナリマシタ陸軍ノ問題デアリマス、是ハ犬養君既ニ藉スニ時日ヲ以テスルト云フコトニナツテ居ルデアリマスガ、此二箇師團問題ナルモノハ、既ニ前内閣ノ瓦解ヲモ來シタル問題ニナツテ居ルデアリマス、之ニ將來ノコトヲ考ヘテ見ナケレバ分ラヌナド云フ事柄ト違フテ、隨分長イ間、朝野ノ問題トナツテ事柄デアリマス、而

モ之ヲ大正二年度ニ於テ豫算ニ計上セヌガ、大正三年度ニ於テドウスルカト云フガ如キコトハ、餘リ御考ヲ要スベキ事柄テナイ、直チニ御答ヘ得ラルベキコト、信ズル、況ヤ其事柄ハ財政ノ計畫ニ大關係ヲ要スルコトデアリマス、故ニ本員ハ此場合ニ於テ、成ベク御答ヲ願ヒタイ、若シ是ガ二三日ヲ要スルト云フコトナラバ已ムヲ得マセヌデアリマスガ、然ラバ海軍擴張ニ對シテハ如何ニスルカ、海軍ノ計畫ニ對シテハ、當豫算ニ於テハ六百万圓ヲ計上シテアルカト思フテ居リマスガ、明年度以後ニ於テハ是等ノタメ金ヲ要スルガ如キコトハナイデアリマセウカ、若シアリトスレバ、ツレハ明年度以後ノ財源ハ如何ニナサルデアリマセウカ、明年度以後ノコトヲ茲ニ御尋ネサルト云フコトハ、本年度ノ豫算ニ對シテハ

不必要カノ如キ御感シモ起ルカモ知リマセヌガ、我國ノ財政計畫ハ、多ク繼續計畫ニナツテ居ルデアリマス、此六百万圓ハ茲ニ繼續計畫ノ如クハ見エテ居ラヌデアリマスガ、性質必ズ繼續ノ性質ニナラナケレバナラヌ管ノモデアラウト思フ、然ラバ之ヲ如何ニ明年

度以後ナサルカ、之ヲ問フ所以ノモノハ、曩ニ御尋シタ二千七百万圓ノ減額ヲ假ニナサル、其以上ヲナサルトシテモ、ツレヲ以テ是等ノモノニ充當セラル、ト云フコトニナレバ、減稅ニ充ツルトコロノモノハ、極メテ少ナクナリハセヌカト云フコトヲ恐レル、故ニ減稅ノコトヲ開クト同時ニ、之ヲ併セテ御尋シタイデアリマス、其次ニモウ一ツ伺フノハ、是ハ鐵道ノ既

往ノ費用デアリマス、即チ五千五百万圓ノ確カ三月ト五月トノ期日ニ於テ償還ヲシナケレバナラヌ管ニナツテ居ラウト思ヒマス、然ラバ其五千五百万圓ノ金ハ、又借換ヘヨナサルノカ、若クハ外國債ヲ御起シナサルノカ、内國債ヲ御起シナサルノカ、之ニ併セテ

其外ニ預金部ノ方ニ於テ千五百万圓ノ借入金ガアル管デアリマス、然ラバ合計シテ七

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千

千



レ、愛親覺羅ノ天下ハ忽チニ引リ返シテハナイカ、諸君其當時ソレマデノ政府ハ盲  
目滅法無定見無方針アツタガ、其革命ノ大時期、其大時期際シテ其當時ノ政府所  
謂政友會諸君ノ成立サレテ居ル所ノ政府ノ執ツタ方針ハドウデアルカ、其當時孫逸仙  
ハ恰モ亞米利加ニ居テ、武昌ノ革命ガ將ニ舉ガラントスル際、日本ヲ通シテ歸シテ吳  
レト云フヲ吾々ノ仲間ニトシ、電報ヲ打ツタノデアル、時ノ政府ニ吾々ハ頭ヲ下ケテ大  
ニ懇願シタケレドモ、ドウモ列國ノ恩感モアルト云フテ斷然勿付ケタ、併ナガラ支那ニ於  
ケル勢ハ益々擧ガタマ所カラシテ、遂ニ遲延ニモツナラハ許シテヤラウト云フコトニ運  
ヲ付ケタガ、孫逸仙ハ既ニ亞米利加ヲ去テ倫敦ニ行テ居ル、駄目デアル、所ガ愈々革  
命ノ火ノ手が熾ニツタガ、擧テ所謂其當時ノ政府ノ革命ニ對スル方針ハ如何ナルモ  
ヲ執ツカ、南ハ南、北ハ北、萬事支離滅裂、無定見無方針、而モ私ガ革命ノ際  
ニ武昌等ニ視察ニ出掛ケテ行ツタガ、其當時日本カ行テ居ル者ハドウ云フ機關  
アルカト云ヘバ、外務省ノ領事館ニハ總領事ガアル、陸軍省カラハ軍人ヲ派遣シテ居ル、  
海軍省モ軍艦ヲ遣テ居ル、所ガ其外務省ノ採ル方針ト、陸軍省ノ採ル方針ト、海軍  
省ノ採ル方針ト、悉ク個々別々ニナツテ居ル、此ノ如キ方針ヲ執テ何事ガ出來ルカ、寧  
テ折角吾々同志ノ者ガ、命ヲ捧ケテ助ケテ居ルヲ拘ラズ、其當時革命黨仲間カラハ、寧  
ロ日本ハ却テ向フノ官軍ヲ助ケテ吾々ヲ毒スルモノデアリカト云フ疑懼ヲ招イテ、其後  
幸ニシテ吾々ノ熱誠及先輩諸君ガ彼地ニ渡ラレテ、纔ニ其疑ヲ解イテ、爾來日本ヲ信  
頼スル氣ニナリマシタガ、併ナガラ私モ幾ラカ考ヘテ、此革命ハ妥協ニ依テ成立ラ  
ズ、南北ノ妥協ニ依テ成立ラシタカラ、或ハ或國ニ於ケル妥協政治ノ如キ變ナモノ  
デアリハセムカト云フ心配モアルカラ、少クモ視察ヲスル必要ガアルト思ヒマシテ、昨年ノ  
秋此議院ヨリ派遣ヲサレテ支那ヲ一巡シマシタガ、ソレデアリトナカク、立派ニ出來テ  
居ル、是ナラバ決シテ妥協ノ結果ト思ハレナイ程巨ク出來上ツテ居ル、是ナラバドウシ  
モ之ヲ完成セシムルノガ我ガ日本ノ最大急務デアルト私ハ信ジタデアリマス、ソレニ依テ  
此度孫逸仙ガコツチヘ來タノモ、ドウシテモ此東亞ノコトハ日本ニ頼ラナケレバナラヌト云  
フ所ノ信賴心カラ來タノデアル、此ニ於テカ私ハ現内閣ニ對シテ御註文ガアル、ソレハ所  
謂形式モアルデアリマセウガ、少クトモ支那ノ中華民國ナルモノヲ承認スルト云フコト  
ハ、他ノ國ニ先鞭ヲ著ラレナイヤウニ、列國ノ手前ナド考ヘズニ、免角日本國ガ率  
先シテヤルト云フ方針ヲ、現内閣ニ執ツテ貰ヒタイ、又現内閣ノ諸公モ其位ノ考ガアル  
デアラウト思フ、有ルカ無イカ、イニスカノウカ、ヤルカヤラスカ、其決心ガ有ルカ無イカト云  
フニツニ一ツノ答辯ヲ聞キタイ、一口ニ有ルカ無イカ、ソレ位ノコトハ言ヘサウナモノダ、ア  
トハ細カナ金ノコト、カ、算盤ノ上ノコトハ他ニ適當ナ人ガアルデセウカラ私ハ問ヒマセヌ、  
唯イニスカノウカノ御返事ヲ承リマセウ

（外務大臣男爵牧野伸顯君演壇）

○外務大臣男爵牧野伸顯君 唯今ノ伊東君ノ御質問ニ御答致シマス、前段ニ御  
述ベニナリマシタコトハ、御質問ノ要領ヲ摘シ兼ネマシテデアリマスガ、併ナガラ末段ニ  
於キマシテ、承認ノコトニ付テ質問ガアツタヤウニ存ジマス、此承認問題ハ成ク早ク行ハ  
レルコトヲ支那ノ爲メニ又我ガ帝國ノ爲メニモ望シテ居ルデアリマス、サリナガラ承認問  
題ト牽聯致シマシテ、帝國臣民ノ利害ノ關係スル所頗ル重大デアリマスカラ、充分ナ考  
慮ヲ盡シテ、此問題ハ解決シナケレバナラヌデアリマス、此問題ニ付キマシテハ、現政府  
ハ斷ズ注意ヲ拂ツテ居リマスカラ、左様御承知願ヒマス

○早速整頓君 私人簡單ニ此席カラ申述ベマス、總理大臣ハ免角書面ヲ送付セヨト  
云フコトデゴザリマスカラ私ハ大藏大臣ニ向テ質問ヲ致スデアリマス、是ナラバ書面ヲ  
ナツトモ、此席ニ御答ヲ得ルコトガ出來ラアラウト思ヒマス、重大ナル此財政整理ノ計

畫ニ付テ、大藏大臣ガ具體的ノ説明ヲ與ヘラレナイト云フコトハ、詢ニ私共ノ遺憾トスルト  
コロデアリマス、内閣ガ組織セラレテ日ハ頗ル淺イノデゴザリマスケレドモ、併ナガラ此財  
政整理ノ計畫ト云フコトニ付キマシテハ、本日ノ議場アタリテハ今少シ詳細ニ御説明ア  
テ然ルベキコト、思ヒマスガ、ソレニモ拘ラズ前刻ノ此大藏大臣ノ御演說ハ、頗ル簡單  
ニ唯ホシノ此豫算ノ一部分ノコトヲ言明セラレタニ止テ、全體ニ於テハ此財政整理  
ノ計畫ニ付テ十分御説明ヲ與ヘラレナイト云フコトハ、本日ノ議場ニ列席シテ居リ  
マス吾々トシテハ、誠ニ遺憾ニ堪ヘナイデアリマス、大分時間モ経テ居リマスカラシ  
テ、私ハ極ク要點ヲ少シ述ベテ、明白ナル大藏大臣ノ御答ヲ煩シタイと思フ、先程來  
他ノ諸君カラノ御質問モゴザリマシタガ、或ハ重ナルトコロガアルカハ知リマセヌガ、併シ既  
ニ御答ニナツタコトハ私ハ尋ネル必要ハナイデアル、第一ニ此公債政策ニ付キ御説明ヲ  
承ラナケレバナラヌ、今日マデノ此財政紊亂ノ原因ハ、公債政策ガ紊レテ居ルコト云フ  
コトガ、其一點デアルト云フコトハ私ガ申スマデモナイデアリマス、財政ノ局ニ當ルモノハ  
此公債政策ヲ如何ニスルカト云フコトニ付テ、先テ第一ニ考テ類ハサナケレバナラヌ  
警デアル、此故ニ私ハ公債政策ニ付テ新大藏大臣ノ御意見ヲ伺フデアリマス、今日  
マデト同ジク、ヤハリ、此公債政策ハ、或ハ以前ノ西園寺内閣ガ採リ來タルトコロ、或ハ  
桂内閣ガ採リ來タルトコロト同ジヤウナ方針ヲ以テ、此公債政策ヲ採ラレ、デアルヤ否ヤ、  
即チ實行ノ出來ナイ公債政策ヲ立テ、豫算ノ實行ニハ行キ詰ルト云フ公債政策ヲ立ッ  
テ、ソレ以テ財政ヲ紊亂セシムルト云フヤウナ、是マデノ内閣ト同ジヤウナル公債政策  
ヲ採ラレ、積リテアルカドウカ、之ヲ私ハ御聞キ致シタイデアリマス、豫算面ノ土カラ調  
ベテ見マスレバ、ヤハリ公債募集ノ金ヲ要スルコトハ、隨分アルデアル、是マデ通りノ計畫  
デゴザリマス、是ハドウシテモ遣リ切レナイ、豫算ノ實行不可能ト云フ所謂行キ詰リ  
ニ陥ルト云フコトハ、私共ガ之ヲ明言スルコトガ出來ルノデゴザリマス、今度ノ内閣モ、ヤ  
ハリ、其通りデアルカ、行キ詰テモ構ハナイ、幾ラ窮シテモ構ハナイ、前ノ内閣ト同ジ通  
リノ公債政策ヲ採テ行クト云フ考デアルカドウカ、之ニ付キマシテ私ハ尙ホ大藏大臣ノ  
意見ヲ確メタイ、國債償還ハ、前内閣即チ此桂内閣ハ國債償還ト云フコトニ重キヲ置  
イテ、何時デモ五千萬圓ノ償還ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ、固執シテ居ルデアリ  
マス、私共ハ此桂内閣ノ意見ニハ反對デアルガ、併シ其意見ハ姑ク措キマシテ、今度ノ  
新ラシキ大藏大臣モヤハリ桂内閣ト同ジコトニ公債ノ五千萬圓償還ト云フコトハ、何處  
マデモ前内閣ト同ジヤウナ方針ヲ行クト云フ御考デアルカドウカ、詳細ニ互リマシテ  
ハ私ハ委員會等テ更ニ承リタイと思フノデゴザリマスガ、公債政策ニ付テ、此二點ニ於  
ケレドモ、頗ル曖昧デアル、或ハ所得稅ノ改正トカ、或ハ營業稅ノ改正ヲスルトカ取引  
所稅ガ如何デアルトカ云フコトヲ御答ニナツタヤウデアルガ、新シキ内閣ノ此稅制整理方  
針ハソレヲケテ、其他ニハ何等ノ御計畫モナイト云フコトヲ私共ハ信ジテ差支ナイノデア  
リマセウカ、大問題、稅制整理ト云ヘル大問題ニ付テ唯アノ位ノ御意見ケケデアルト云  
フコトニ相成リマスレバ、私ハ實ニ此新シキ内閣ノ財政ニ關スル御意見ト云フモノニ疑  
容レザラ得ナイデアル、今少シテス——今少シ此稅制整理ト云フコトニ付テ、御經綸  
ガアルノデアリカ、御計畫ガアルノデアリカ、此點ニ付テハキリ御答ヲ願ヒタイと思フ  
デアリマス、ソレカラ、モウ一ツ私ハ御尋フシタイ、先程増田君カラノ御尋ニ對シテ、大  
藏大臣ノ御答ハ頗ル要領ヲ得テ居ラナカッタノデゴザリマス、私ハ方面ヲ變ヘテ御尋ヲ  
致シタイ、新シキ大藏大臣ノ是カラ後民間ノ經濟世界ニ對スル政策ハ如何デアルカト  
云フコトヲデアル、今日マデノ經過ニ依リマスレバ、時ノ内閣ハ何時デモ此民間ノ經  
濟社會ニ對シテ、壓迫ヲ加ヘルト云フ態度ヲ採ツテ居ル、最モ著シキ事實ハ、日本銀行

ニ對スル内閣ノ遣リ口ト云フモノガ、明カニ之ヲ證明シテ居ルハ、日本銀行ガ民間ノ經濟社會ノ機關トナルコトガ稀ニシテ、御上ノ御用機關トナシテ、常ニ財政ノタメニ此民間ノ經濟社會ヲ苦シメテ居ルコト云フ事實ガアルデアリマス、此民間ノ經濟社會ニ對スル壓迫、此壓迫ヲ今日以後如何ニスルカ、新シキ大藏大臣ハ此點ニ關シテ如何様ナル考ヲ御持テモ財政ノ遺線リヲメニ、明白ニ御答ヲ願ヒタイデアアル、財政ノ遺線リヲシテ、何時デモ財政ノ遺線リヲメニ、日本銀行ヲ利用スルコト云フコトニ相成リマシテハ、總理大臣ノ所謂經濟上ノ調和ヲ保ツト云フコトハ殆ドムツカシイデアアル、此點ニ付テハ財政ヲ整理スルコト云フコトヲ眼目トシテ、民間ノ經濟社會ノ壓迫ヲ除クコト云フ、斯ウ云フコトニ相成ラナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアリマス、新シキ大藏大臣ノ所見ハ如何デアルカ、増田君ノ御尋ニ對シテ大藏大臣ノ御答モアツタデアリマス、私ハ明瞭ニ其御答ヲ得タイガタメニ、項目ヲ擧ゲテ御尋ヲ致シマス（登壇ヤヤ）「簡單ニヤレト呼ブ者アリ」今日ノ物價ノ騰貴ニ關シテ大藏大臣ハ此物價ノ調和策ニ付テ、如何様ナル策ヲ採ラントセラル、カト云フコトガ、今一ツハ、此貿易ノ逆調ヲ挽回スルタメニ、内閣ハ如何様ナル政策ヲ採ラントセラル、カト云フコトガ、ソレカラ兌換券ノ膨脹ト云フコトニ關シテ、將來内閣ハ如何様ナル政策ヲ採ラントセラル、カト云フコトガ、一ツ是ダケノ問題ヲ明白ニ御答ヲ願ヒマス、先ツ大體ニ於テ新内閣ノ財政方針ト云フモノヲ伺フコトガ出來ルノデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、細目ハ豫算委員會ニ讓リマシテ、唯今申シテ點ニ付テ大藏大臣ノ御答ヲ煩シタイ

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 議長

○議長(大岡育造君) 高橋大藏大臣

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 大分長イ御質問デアリマシテ……

○議長(大岡育造君) 登壇ヲ希望シマス

(大藏大臣男爵高橋是清君登壇)

○大藏大臣(男爵高橋是清君) 唯今早速君ノ御問ノ第一ガ、公債政策ヲ如何ニスルヤ、是マデノ政府ノ如クヤハリ豫算實行ガ出來ナクナシテ行詰リハセウガ——私ノ記憶ノアル限りハ未ダ日本政府ガ公債政策ノ出来ニ行詰リテ、豫算實行ガ出來ナクナシテ云フコトヲ知リマセマス、ソレテ事實ヲ擧ゲテ書面ヲ質問ヲ願ヒマス、又第一ノ質問ハ國債償還五千万圓ヲ繼續シテヤルカ、永遠ヤルカ、斯ウ云フ御問ノヤウデシタ、是ハ我國ノ信用ガ相當ニ——國ノ位置相當ニ安心シテ保タレムデアラマデハ斷ジテ繼續スル積リデアリマス、稅制整理ハ過刻此所テ名指シマシタルモノ、外ハ何モヤラヌカ、斯ウ云フ御問ノヤウニシタ、是ハ唯今ノ二題ニ向ヒマシテ凡ソ三年度ニ於テ斯クスルコトヲ斯ク斯ク考ヘテ居ルト申シタデアリマス、凡ソ財政ノ局ニ當リマス者ハ、國運ノ順當ナル發展ヲ害セザル程度ニ於テ、常ニ政費ノ節約ヲ計ラネバナラヌモノト私ハ心得テ居ルデアス、苟モ之ヲ一年二年怠リマシタラバ、必ズ其毒ガ殘ルノデアリマス、故ニ政費ノ節約ノコトハ常ニ留意致ス積リデアリマス、ソレカラ政府ガ經濟社會ヲ壓迫シタ日本銀行ヲ全ク國家ノ機關トセズニ、政府ノ都合ノ好イ機關トシテ使ッテ、經濟社會ヲ壓迫シタ云フ御非難デアリマス、是モドウカ事實ヲ擧ゲラレテ書面ヲ御問ヲ願ヒマス、其他物價ノ騰貴デアリマス、貿易ノ擴張、ソレハ皆書面ヲ御答致シマス

○議長(大岡育造君) 日程ニ入りマス、日程第一災害地方田畑地租免除ニ關スル法律案 提出者森茂生君

第一 君外六名提出

災害地方田畑地租免除ニ關スル法律案(森茂生)

第一讀會

第一條 明治四十五年申災害又ハ天候不良ニ因リ府縣又ハ北海道ノ全部若

ハ一部ニ互リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限り之ヲ免除ス

第二條 前條免除ノ申請ハ本法施行後一箇月以内ニ所轄稅務署ニ申出ツヘシ此ノ期間ヲ經過シタルトキハ免除ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

明治三十六年法律第三號ニ依リ地租延納ヲ出願シタル者ハ本法ニ依ル地租免除ノ出願ヲ爲シタル者ト看做ス

第三條 本法ニ依リ被害調査中ハ其ノ田畑ノ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

第四條 本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セ

(森茂生君登壇)

○森茂生君 諸君、昨年九月三重愛知岐阜ノ三縣下ニ於ケル暴風ノ大被害ガ、本案ヲ提出スルノ已ムヲ得ザルニ至ッタデアリマス、尙ホ此外ニ被害ヲ受ケタ地方モ少カラヌコトヲ聞及ンデ居ルデアリマス、昨年九月ノ暴風雨ハ、諸君御承知ノ如ク數十年來嘗テ無イ所ノ暴風デアリマシテ、強風ハ潮ヲ捲上ゲテ、之ヲ田畑ニ降ラシタデアリマス……

(此時議長大岡育造君議長席ヲ退キ副議長關直彦君議長席ニ著ク)

○森茂生君 故ニ其地方ノ田畑ノ收穫ト云フモノハ、殆ド皆無ニ歸スルノ慘狀ニ至ッタデアリマス、然ルニ今日此被害救済ニ關スル法律ハ二ツアルデアリマス、一ハ地租延納法、一ハ水害ノ場合ニ於ケル地租免除法デアリマス、此延納法ハ被害人民ニ對スル恩惠法デアリマシテ、其手續ト云フモノハ甚ダ繁雜デ、實際其恩澤ニ浴スルコト、云フモノハ誠ニムツカシクシテ、實ニ效果ノ薄イ法律デアリマス、地租ト云フモノハ御承知ノ如ク、年ノ豐凶ニ依テ其稅ヲ増減スルモノデアリマス、原則デアリマス、モ、既ニ水害ノ場合ニ於テ免租ノ除外例ヲ認ムル以上ハ、他ノ災害ノ場合ト雖モ之ヲ免租スルハ適當ノ處置ト云ハネバナラヌデアリマス、又是非トモ免租ヲ爲セキモノデアルト信ズルデアリマス、我國民ハ平時ニ於キマシテ、國家ノ經費ヲ負擔スルコトハ決して厭フモノデアリマス、殊ニ戰時ノ如キ國家危急ノ場合ニ於キマシテハ、最後ノ一錢モ決シテ國費ニ投ズルコトヲ辭セザル國民デアアルデアリマス、故ニ一方災害ニ依リマシテ、收穫ガ皆無ト云フヤウナ場合ニ於キマシタトキニハ、此不幸ノ國民ヲ救フニ免租ヲスルト云フコトハ、國家ト致シテ當然ノ義務デアルト信ズルデアリマス、帝國今日ノ財政ハ實ニ餘裕ノ無イコトデアリマス、此國家ノ收入ヲ減ズルト云フコトハ、甚ダ我々ノ好マザル事デアリマス、斯ノ如キ不幸ノ人民ガ出來タ場合ニ於キマシテハ、之ヲ免除スルコト云フコトニ於キマシテ、政府當局ニ於キマシテハ、決シテ異議ノ無イコト、信ズルデアリマス、願クハ滿場ノ諸君本案ニ御贊成アラント祈ルデアリマス

○福田又一君 議長——提出者ニ質問ガアリマス

○副議長(關直彦君) 福田又一君

○福田又一君 チョット提出者ニ御尋致シマスガ、一昨年即チ四十四年ニ、秋田山形ニ稻熱病ト云フモノガ起リマシテ(委員會テ呼ブ者アリ)委員會デアリ、此場合——委員會ハ委員會デアリマス、秋田山形ノ稻熱病ノ劇シカッタコトハ御承知ノ通りデアリマス、及ヒ東京ノ電害ノコトモ御承知デアリマセウガ、就テハ四十五年度ト云フコトヲ一年繰上ゲテ、四十四年度ニ遡ラスト云フコトニ御異議ハ無イデアリマセウカ、ソレヲチヨット此場合ニ御尋致シタイ

○森茂生君 本員ハ昨年ノ九月ノ問題ニ對スル案ヲ提出致シタデアリマス、左様御承知アラント希望致シマス

○松田源治君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ希望致シマス  
〔賛成々々ノ聲起ル〕

○副議長(關直彦君) 松田君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○副議長(關直彦君) ヲレナラバ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ決定サレマシ  
タ、次ハ日程第二未成年者飲酒取締ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——根本  
正君

第二 未成年者飲酒取締ニ關スル法律案(根本正君提 第一讀會)

營業上酒類ヲ供給スル者ハ未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其ノ自用ニ供  
スルコトヲ知リテ販賣若ハ給與スルコトヲ得ス  
前項ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス  
〔根本正君登壇〕

○根本正君 諸君、未成年者飲酒取締ニ關スル法律案ハ、過ル三十二年來提出ニ  
ナリマシテ、此事ニ付キマシテハ諸君ガ能ク御承知デアリマスカラシテ、詳シク申上ゲマセ  
ヌ、併ナカラ最モ必要ナル箇條ヲ一二申上ゲタイト思フデアリマス、此未成年者タルモ  
ノハ、主ニ學校ニ居ル者デアリマス、此法案ハ亞米利加ノ如キハ一十五年前、英吉利  
ノ如キハ一千九百一年、即チ十二年前ニ出來テ居リマス、帝國ニ於キマシテモ本案ハ  
十年前以前ニ出來テ居ランケレバナラヌ問題デアリマス、併ナガラ未ダ衆議院ハ通過スル  
ケレドモ、貴族院ノ方ニ於テ、毎々調査中ニ終ルコトデアリマス、此ニ特ニ諸君ニ申上  
ゲテ置キタイコトハ、此法案ハ、昔々要ランテアツタガ今日ハ必要ナモノデアルト云フコト  
ヲ、能ク御承知ヲ願ヒタイコトデアリマス、ト云フモノハ今日帝國ニ於ケルトコロノ普通  
教育、即チ小學校ノ爲メニ、公稅即チ租稅ヲ以テ、八千万圓以上出シテ居リマス、  
故ニ今日ハ子ガアツテモ無クテモ、租稅ヲ以テ教育ノ費用ニ充テル、國庫ヨリハ先年百  
万圓補助スルコトニナツテ居テ、其後又百万圓、二百萬圓、又之ニ加フルニ教育基金  
一千万圓ノ利子五十萬圓ト云フヤウニ、地方費及ヒ國費カラ成立シテ居ルモノデアリ  
マス、斯ノ如ク法律ノ結果ヨリシテ、莫大ナル金ヲ教育ノ爲メニ費スルモノデアリマス  
故ニ、此ノ學生ガ一人タリト雖モ、不結果ヲ見マスルナラバ、其ノ弊害ハ誰ニ及ブカト云  
フト、即チ子ガアツテモ無クテモ、一般人民諸君ニ及ブ譯デアリマス、デアリマス故ニ、  
昔教育ト云フモノハ只其地方ニ於テ、其地方ノ智識ノアル者ニ限ツテ學ブ時代デアツタ  
ナラバ、此法律ガ無クテ濟ミマシタケレドモ、今日ハ即チ普通教育、國民教育ト云フコ  
トニナツテ、國家即チ法律ノ上ニ教育ト云フモノヲ支配スルコトニナツテ、寺子屋ノ自由  
ニナラヌ譯ニナツタデアリマス、故ニ此ノ子弟ガ一人タリト雖モ立派ノ者ニナリマスナラ  
バ、即チ日本ノ文明ヲ盛ンシ、又一八タリト雖モ之ガ墮落シマスルナラバ、日本ノ國  
威ヲ下ゲルコト云フコトニナル、ダニ依ツテ、此法案ハ、未成年者ヲ保護シ、立派ニ立憲的  
ノ人民ヲ作ツテ、即チ政黨内閣ヲスルニモ此ノ法案ガラズンバ本當ノ良民ハ出來ナイノ  
デアリマス、(拍手スル者アリ)故ニ此理由トシテハ、即チ三十九頁ノ長イ理由ガ書イテアリ  
マスルカラシテ、之ヲ議長ノ許可ヲ得テ例年ノ如ク速記ニ載セテ、此法案ノ如何ニ必要  
デアルカト云フコトヲ、滿天下ノ人ニ知ラシメテ、以テ吾々ガ國家ニ對スル責任ニ對ヘタ  
イト思ヒマス、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ以テ、今年ハ當リ衆議院ノミナラズ、貴族院ニ於  
テモ通過スルコトヲ、私ハ望ムデアリマス

(根本正君演說參考書)

自明治四十五年一月 未成年者喫煙禁止法ニ依リ處分シタル人員調(内務省警保局)  
至大正元年七月

府縣	喫煙器具 沒收人員	罰金又ハ科料ニ 處シタル人員	說諭ニ止メ タル人員	計
北海道	三	四	二	五
東北道	三	四	二	五
關東道	三	四	二	五
關西道	三	四	二	五
北陸道	三	四	二	五
濃尾道	三	四	二	五
美濃道	三	四	二	五
信濃道	三	四	二	五
越前道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	五
新潟道	三	四	二	五
富山道	三	四	二	五
石川道	三	四	二	五
福井道	三	四	二	五
山梨道	三	四	二	五
長野道	三	四	二	五
山形道	三	四	二	五
秋田道	三	四	二	五
岩手道	三	四	二	五
宮城道	三	四	二	五
福島道	三	四	二	五
茨城道	三	四	二	五
栃木道	三	四	二	五
群馬道	三	四	二	

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案理由書

未成年者ノ身體各部ノ組織ハ未タ完全セザルヲ以テ之ヲ成年者ニ比スレハ「アルコール」ノ侵害ヲ受クルコト一層多大ナリ其ノ最患フヘキモノハ全國幾萬ノ學生カ飲酒ノ爲其ノ目的タル學業ヲ成ス能ハサルニアリ是レ文明諸國カ幼者ノ飲酒取締ニ關シ特ニ嚴重ナル規定ヲ設クル所以ナリ

英國ニ於テハ千九百一年八月十七日議會ヲ通過シ其ノ翌年一月一日ヨリ施行セラル幼者酒類賣買取締法アリ又米國ノ如キハ千八百八十二年ヨリ千九百二十一年ニ至ル二十年間ニ各州相前後シテ未成年者酒類ヲ販賣スルコトヲ禁止スルノ法律ヲ實施シ千八百九十年ヨリ千九百年ニ至ル十年間ニ於テ合衆國ノ人民ノ壽命ハ平均四年ト十分ノ一ヲ伸暢セリトハ米國教育協會「ハント」氏ヨリ菊池前文部大臣ヘ通信ニ確報セラレタル所ナリ飲酒ノ害タル大要ヲ舉グレハ左ノ如シ

- 一 心臟ノ神經又ハ筋肉ヲ刺戟シテ之ヲ衰弱セシムルノミナラス其ノ筋質ヲシテ脂肪ニ變セシメ終ニ其ノ作用ヲ完全ニ營ムコト能ハサラシム
  - 二 血管ハ酒精ノ作用ニ依リテ變質シ血壓ノ爲ニ往々破裂スルコトアリ彼ノ卒中症ノ如キハ全ク腦血管ノ破裂ニ依ルモノナリ
  - 三 身體衰ヘ從テ肺臟ヨリ呼出スル炭酸ノ量ヲ減シ炭酸ノ排泄減スレハ即チ體內ノ酸化作用妨害セラル其ノ結果體溫減シ身體衰フ
  - 四 腎臟實質ヲ脂肪性ニ變シ老廢物ヲ排除スルコト能ハサラシム
  - 五 肝臟ヲ肥大セシメテ常形ノ二倍ト爲スニ至ルノミナラス膽汁ヲ變シテ綠色ト爲シ甚キハ黑色ト爲スニ至ル
  - 六 血管器ノ粘膜ヲ害シ血管ノ彈力性ヲ變弱セシム
  - 七 血管運動神經ニ麻痺ヲ起スヲ以テ血管劇張シ血行活潑ト爲リ諸器管ハ一時ニ興奮シ從テ腦ノ判力ヲシテ錯雜ナラシメ興奮ノ爲諸器管活潑ト爲リシ後尙飲酒ヲ持續スレハ先ツ小腦侵サレ爲ニ筋肉ヲ拍撃スルノ力減弱シ僅ニ増進シタル體溫忽チ減退シ身體寒冷ト爲ルヘシ
- 故ニ孰レノ點ヨリ觀察スルモ酒ノ人身ニ有害無益ノ毒物タルヲ明ナリ吾人國民ハ將來ノ良民ト爲ルヘキ未成年者ニ對シテ最愛ナル親權ヲ施行シ之ヲ監督養成スヘキ大責任ヲ負擔スレハ法律ニ依リ未成年者ノ飲酒ヲ取締ルハ決シテ干渉ニ過クルモノニ非サルナリ偶々本案實行ノ困難ヲ説ク者アルモ其ノ困難ハ獨リ本案ノミニ限ラルヘキニ非ス若シテ口實トシテ本案ノ廢棄ヲ唱フル者アラハ是レ強竊盜盜キサルノ故ヲ以テ之ヲ自由ニ放任スヘシト説キ其取締ノ全廢ヲ主張スル者ト何ゾ擇フ所アラム是レ其ノ制定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出スル所以ナリ

(參照)

獨逸皇帝陛下ノ禁酒御演說ノ全文

兵學校生徒ニ對シ禁酒御演說ノ全文左ノ如シ

朕ハ此ノ序ヲ以テ獨逸國民ニ對シ朕カ深ク懸念スル所ノ一事ヲ警告セムト欲ス即チ飲酒ノ問題是ナリ朕ハ飲酒ヲ嗜好スルハ古來我カ國民ノ習慣ナル事ヲ熟知ス然レトモ自今我等ハ人事ノ凡テノ場合ニ於テ克己制欲シテ此ノ惡習慣ヨリ脱却セザルヘカラス想フニ朕カ統治二十二年間ニ起リタル犯罪事件ノ十中ノ九迄ハ飲酒ニ基因スルモノト斷言スル事ヲ得ルナリ蓋往時ハ豪飲ヲ以テ青年ノ能事ノ如ク思惟シタル時代モアリキ而シテ朕カ一少壯士官ナリ頃之ニ關係セスト雖

其ノ例證ヲ見聞シタル事少カラサリ然レトモ是等ハ二十年戰爭時代ニハ適シタル過去ノ思想ニシテ現代ニハ不適當ナル事ト知ラサルヘカラス此ノ他飲酒ノ結果如何ニ就テハ敢テ朕ノ辨說ヲ要セサルカ故ニ暫ク措テ論セズ茲ニ先ツ諸子カ將來ノ職務上ニ關シ諸子ノ注意ヲ促スモノアリ開ハ諸子カ他日軍艦生活ヲ爲スニ當リ諸子ハ朕カ海軍ハ勇壯無比ノ任務ヲ要スルノ程度ニ達シタルハ平時ニ充分ノ氣力ヲ營養シテ緩急ノ場合ニ應セザルヘカラス發見スヘシ抑將來ノ海軍ハ健全ナル神經ヲ要ス之ヲ換言スレハ海戰ノ勝敗ヲ決スル者ハ神經ナリ然レニ飲酒ハ此ノ神經ヲ遲鈍ナラシメ而シテ之ニ危害ヲ加フルモノナリ又諸子ハ他日射的船ニ對スル現今ノ砲術練習ヲ目撃スルニ當リ如何ニ強健ナル神經ト冷靜ナル頭腦トヲ要スルカヲ發見スヘシ即チ「アルコール」ヲ最モ少ク飲用スル國民カ常ニ勝利者トナラ知ルヘシ是レ即チ朕カ諸子ニ警告スル所以ニシテ而シテ又諸子ヲ通シテ艦員ニ好模範ヲ與ヘムト欲スルナリ就テハ朕カ諸子ニ希望スル所ノ者ハ諸子カ今後在校中ト乘艦中ト將又普通交際場裏トニ拘ラス如何ナル時如何ナル場合ニ在リテモ飲酒ヲ目シテ諸子カ特權ノ一ナルカ如ク思惟スヘカラス是レナリ

近時我カ國ニアリテモ美風集會所赤十字同盟會等ノ禁酒矯風團體設立セラレテ既ニ幾多ノ士官ト數百ノ兵卒トハ之ニ入會シテ朕カ諸子モ亦之ニ加盟セラレテ自他禁酒矯風ノ實ヲ舉ケラレム事ヲ切望ス現ニ英國ノ海軍ノ如キハ已ニ三萬ノ將卒カ此ノ種ノ團體ニ加入セル事ニ諸子ノ注意ヲ要スルナリ是レ實ニ朕カ海軍及朕カ國民ニ對スル一大問題ナリ若諸子ノ首唱ニ由リテ艦員カ凡テ禁酒ノ人ト爲リ而シテ他日彼等退役ノ後斯ノ主義ヲ全國到ル處ニ傳播スルニ及ハハ其ノ時コソ朕ハ道德崇高ニシテ身體健全加フルニ知識明晰ナル臣民ヲ得ヘキナレ

英國海軍禁酒團ノ概況

英國第一ノ軍港「ポーツマウス」ニハ禁酒禁煙主義ヲ以テ成立セル海兵休息所ナル者ノ外ニ皇國海軍禁酒團ナル者有之本部ヲ右ノ休息所内ニ置キ現役豫備ノ大中將以下數十名ノ將校ヲ名譽會員トシテ下士卒ノ現ニ會員タル者ニ萬餘人アリ先帝「エドワード」先々帝「ジョージ」陛下ノ如キモ大同情ヲ垂レ給ヒ度々御臨幸モアリ御下賜金モアリ御肖像下賜サヘ有之以テ如何ニ英國ノ上流社會カ國力ノ要素タル海軍ノ禁酒事業ニ重キヲ措クカラ見ルニ足ルヘク而シテ又英國ノ海軍カ其ノ「ドレドノット」外ニ別ニ雄飛スルノ素地アルヲ察知スヘキナリ

獨英斯ノ主義ニ注意ヲ拂フ此ノ如シ

茲ニ歐米各國ノ法典中ヨリ幼者ノ飲酒禁止ニ關スル條項ヲ摘載シ以テ參稽ニ資セムトス

○「カリホルニア」州ノ法律

「カリホルニア」州ハ千八百九十一年三月十一日ヲ以テ幼者飲酒禁止法ヲ制定セリ

幼者飲酒禁止法

第一條 滿十八年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタル者竝ニ滿十八年以下ノ幼者ヲ來客トシテ出入セシメタル飲酒店料理店等ノ店主ハ失行罪トシテ之ヲ處分シ二百圓以上八百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 此ノ法律ニ抵觸スル法律規則ハ總テ之ヲ廢棄ス  
第三條 此ノ法律ハ議定ノ當日ヨリ有效ナルモノトス

酒類取締法

第八十九條第二項 滿二十一年以下ノ幼者年齢ヲ僞テ成年者ト稱シ酒類販賣者ヨリ酒類ヲ購求シタルトキハ該幼者ヲ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ五日以上三十日以下ノ禁錮ニ處ス

同第三項 滿二十一年以下ノ幼者ノ爲メ酒類ヲ購求シタル者ハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ三十日以上九十日以下ノ禁錮ニ處ス

英國幼者酒類販賣取締法(明治三十四年八月十七日可決)  
英國皇帝陛下ハ貴族院及衆議院ノ協贊ヲ經テ爾幼者酒類販賣取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 千八百八十六年ニ發布セラレタル幼者酒類販賣取締法ハ之ヲ廢棄ス

第二條 酒類販賣營業免許ヲ有スル者酒類ノ何タルヲ問ハス情ヲ知テ滿十四年以下ノ幼者ニ之ヲ販賣若ハ交付スルトキ又ハ八オシテ該幼者ニ販賣若ハ交付セシムルトキハ四十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五磅以下ノ罰金ニ處ス但シ購買者ノ住宅又ハ執業勞働所ニ於テ販賣若ハ交付スル場合並ニ酒類買置ノ場所以外ノ地ニ於テ消費セラレカ爲メ一平(二百五十二匁)以上ノ分量ヲ器物ニ入レ該器物ニ極ヲ爲シ且封印シテ販賣若ハ交付スル場合ハ此限在ラス

何人タルヲ問ハス酒類ヲ得ヘキ目的ヲ以テ酒類ヲ販賣セラレ若ハ交付セラレ又ハ配賦セラレル場所へ情ヲ知テ滿十四年以下ノ幼者ヲ使ニ送ルコトヲ禁ス此ノ禁ヲ犯ス者ハ前項ノ罰金ニ處ス但シ販賣交付又ハ配賦セラレヘキ酒類若ハ前項ノ如ク器物中ニ封印セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 酒類販賣營業免許ヲ有スル者ハ酒類ノ交付者トシテ家族、僕婢、雇入等ヲ使用スルコトヲ得

第四條 此ノ法ノ下ニ訴訟ノ起リタル場合ニ於テハ此ノ法ハ英國ニ於テハ千八百七十二年ヨリ同七十四年マテ施行セラレタル酒類免許條例、蘇格蘭ニ於テハ千八百二十八年ヨリ同九十七年マテ施行セラレタル酒類免許條例、愛爾蘭ニ於テハ千八百二十三年ヨリ千九百年マテ施行セラレタル酒類免許條例ト同一ノモノトシテ解釋セラレヘキモノトス

第五條 此ノ法ニ於テ「控」ト稱スルハ塞子ノ種類ノ木タルト其ノ他ノ物體タルトヲ問ハス總テ之ヲ控ト稱スルモノトス

第六條 此ノ法ヲ稱シテ千九百一年ノ幼者酒類販賣取締法ト云フ

第七條 此ノ法ハ千九百二年一月一日ヨリ施行ス

英國幼者酒類販賣禁止法案ノ提出  
英國衆議院議員「クロムビー」氏ヨリ同院ニ提出セル幼者酒類販賣禁止法案ハ千九百一年二月十九日ヲ以テ同院ノ議事日程ニ上リ同三月二十日其ノ第一讀會ハ開カレタリ

是ヨリ先キ同法案ハ「サリ、ワヨセフ、リトス」氏ヨリ議院ニ提出スヘキ管テ氏ハ多年衆議院議員トシテ議場ノ經驗ニ富ミタル老練家ナルカ故ニ議院内外ノ禁酒主義

者ハ深ク氏ニ望ミ賜シ氏モ亦法案提出ノ件ニ付大ニ斡旋スル所アリシカ不幸ニシテ病ニ罹リ到底同案提出ノ如キ重大ナル責任ヲ負擔スヘカラサルモノアリ依テ氏ハ後繼者トシテ「クロムビー」氏ヲ推薦シ同主義者モ亦一般ニ之ニ同意ヲ表セルヲ以テ氏ハ則チ「クロムビー」氏ニ後事ヲ託シ政界ノ煩悶ヲ暫ク閑地ニ靜養セリ

「クロムビー」氏ハ新進ノ政治家ナレトモ其ノ技術ハ非凡ナルハ既ニ世人ノ認識セル所ナレハ氏ハ議院内外ノ輿望ニ依テ愈々禁酒法案ノ提出者トナリ左記ノ諸氏ハ贊成者トシテ同法案ニ署名セリ

前國務大臣「アスネス」氏 「F. G. ラス」氏 「ヘンリー、フレイ」氏  
「サリ、エドワード、グレイ」氏 「ハリット」氏 「サリ、ワヨセフ、リトス」氏  
「サリ、ウネリアム、ホーツウブリス」氏 「ドリトン」氏 「エ、ト、マス」氏  
「ウネリアム、ジョンストン」氏 「ビール」氏

一千九百一年二月二十日午後零時ヲ以テ禁酒法案ノ第一讀會ハ開カレタリ、此日傍聽席ハ開會前既ニ滿員シ近年稀ナル盛況ヲ呈シタリシカ原案提出者「クロムビー」氏ハ滿堂喝采拍手ノ裡ニ起立シテ左ノ如ク演說セリ

「クロムビー」氏 滿堂ノ諸君ヨ、余ハ原案提出ノ榮譽ヲ得タルコトヲ諸君ニ感謝スルト同時ニ豫メ諸君ニ懇望スヘキ一事カアル、其レハ外ノ事テハナイ元來此ノ原案提出者ハ知名ノ人物テナイ(謙遜ヲ呼フ者アリ)提出者カ有名ノ人トテナイカラト云フテ併テ原案其物ヲ輕ク見ラレヌ様豫メ希望ス、扱テ是ヨリ本法律案ニ就キ鄙見ヲ開陳センニ抑々本案ハ三個ノ性格ヲ具備シテ居ル、則チ第一ニ本案ハ黨派問題ニ非サルコト(拍手喝采)第二ニ本案ハ時勢ノ必要ニ適合シテ居ルコト第三ニ本案ハ禁酒主義ヲ溫和ニ應用セルモノナルコト、此ノ三個アルカ溫和ナル禁酒主義ニ對シテ本院中何人モ反對ハアラサルヘシ、否ハ溫和ナル禁酒主義ハ滿堂諸君ノ歡迎セラレル所ナラン(ヒヤク)回顧スルニ禁酒主義者ト其ノ反對者ハ近年マテ相共ニ極端ニ走テ氷炭相容レス前者ハ法律ヲ以テ一國ノ酒類ヲ全滅シ根絶セヨト説キ後者ハ酒類ノ實買ノコト並ニ之ヲ飲ムトカ飲ムトカ云フ様ナコト

ハ一切法律ヲ以テ干渉スヘカラスト論シ雙方共實ニ非常ノ極端主義ヲ固執シタリシカ爾來世ノ風潮全ク一變シテ復タ斯ル極端主義ヲ主張スルコトヲ止メ雙方共ニ中正穩和ノ意見ニ依テ酒類問題ヲ解釋スルニ至レリ余輩ハ國家ノ爲メ之ヲ祝セサルヲ得ス(ヒヤク)今ヤ酒類問題ハ抽象的討論問題ノ範圍ヲ脱シテ具體的實行問題トナリ、倫理道德問題ノ域ヨリ進ミテ國家生存問題トナレリ(喝采拍手)然リ酒類問題ハ國家ノ生存ニ大關係ヲ有スル實際問題ナリ、請フ試ニ世界進化ノ大勢ヲ見ヨ、列國間ニ於ケル生存競争ハ一年ニ激烈ノ度ヲ加フルニアラスヤ、此ノ激烈ナル競争場裡ニ立テ優勝ノ位置ヲ占ムル者ハ必ス心身ノ強健ナル國民ナルヘク、劣敗ノ悲境ニ落ル者ハ體格ヲ軟弱ナル國民ナラシムル是レ明々白々ナル自然ノ數ニシテ而シテ酒ハ人ノ體格ヲ軟弱ナラシムル諸原因中實ニ其ノ絶大ナルモノニ非スヤ(大喝采)果シテ然ラハ酒類毒害ノ蔓延ヲ防禦セムカ爲相當ノ取締ヲ爲スハ國家當然ノ義務ナルヘシ(大喝采)夫レ然リ酒類ノ毒害ハ之ヲ防止セサルヘカラス、但シ現代人民ノ飲酒ニ由テ生スル所ノ細大ノ弊害ハ嚴重ナル取締ニ依テ一切之ヲ掃蕩シ得ヘキカ之ヘ一ノ疑問テアル、激烈嚴密ノ法律ヲ設テ之ヲ履行スルトキハ現代國民飲酒ノ弊害ヲ悉ク除却スルコトヲ得ヘキヤ否、之ハ疑問テアル、而シテ余ハ今茲ニ之ヲ解釋ヲ試ミサルヘシ、余ハ過去現在ノ國民ニ就テハ茲ニ喋々セラルヘシ、然リト雖將來ハ吾人ノ眼前ニ在リ今ノ幼者ハ將來ノ國民ナリ、此ノ將來ノ國民

者ハ深ク氏ニ望ミ賜シ氏モ亦法案提出ノ件ニ付大ニ斡旋スル所アリシカ不幸ニシテ病ニ罹リ到底同案提出ノ如キ重大ナル責任ヲ負擔スヘカラサルモノアリ依テ氏ハ後繼者トシテ「クロムビー」氏ヲ推薦シ同主義者モ亦一般ニ之ニ同意ヲ表セルヲ以テ氏ハ則チ「クロムビー」氏ニ後事ヲ託シ政界ノ煩悶ヲ暫ク閑地ニ靜養セリ

ハ今日此ニ數層激甚ナル世界列國生存競争場裡ニ立タントスル者ナルカ故ニ彼等ノ心身ヲ強健ナラシムルハ彼等ノ父母タル吾人人民ノ一大責任ニ非スヤ(喝采拍手)次代國民ノ體格ヲ完全ニ發育セシムルハ當代ノ國民タル吾人ノ一大義務ニ非スヤ(喝采拍手)果シテ然リトセハ吾人ハ酒類毒害ノ幼者ニ傳染スルヲ豫防セザルヘカラス、是レ余輩同志者カ本案ヲ提出シテ諸君ノ贊同ヲ求ムル所以ナリ(拍手大喝采)而シテ酒類ニ關スル現時ノ狀態ハ如何、彼ノ飲酒店及酒類販賣店ノ形況ハ如何、余面ヨリ是等ノ營業其ノ物ヲ非難スルニアラス、亦店主其ノ人ヲ責ムルニ非ス、是等ノ營業者中ニハ寧ろ尊敬スヘキ人モ少ナカラス、然レトモ次代ノ國民トシテ國家ヲ負擔スヘキ少年子弟カ是等ノ營業店ニ出入スルコトニ關シテハ余輩絕對的ニ反對セザルヲ得ス(ヒヤ、ヒヤ)、精確ナル統計ニヨレハ是等酒店ニ往來スル者ノ中ニテ少ナクモ其ノ一割四分ハ幼者ニシテ是等ノ幼者ハ其ノ初メハ父兄ノ爲メニ酒ヲ買フニ過キサルニモセヨ屢々酒店ニ出入スルニ從ヒ幼者自カラ飲酒ノ惡習ニ感染スルコトナキヲ保シ難シ、否テ酒氣ヲ帶ヒタル少年ヲハ吾人ハ途上ニ於テ往々目撃スルコトアリ、尤モ從來ノ法律モ幼者ノ飲酒ヲ禁止セザルニ非ス即チ酒類ノ營業者ハ其ノ販賣ノ場所ニテ飲用セザル、モノト知リタル以上ハ幼者ニ賣渡スコトヲ禁止セラレ、酒ニ醉フタル幼者ハ警察官ニ依テ拘留ノ刑ニ處セラル、去レト此ノ現行法ハ實地格別ノ效用ヲナササルト云フ、其ノ次第ハ成ルホト、販賣ノ場所ニ於テ幼者ハ飲用スルコトヲ得サレトモ其ノ場所以外ノ地ナラハ幼者ハ現行法ノ下ニテ自由ニ酒ヲ飲ミ得ルナリ、又酒ニ醉フタル少年ハ現行法ニヨリ拘留ノ處分ヲ受ケルト雖之ハ酌量セル少年カ警察官ニ反抗シテ其ノ命ニ服セザル等ノ如キ場合ニ限ラレタルニ似タリ故ニ余ハ現行法ヲ評シテ同法ハ幼者ノ飲酒ヲ制止スヘキ效力ヲ有セサルモノト斷言スルヲ憚ラス、是レヨリ先キ政府ノ幼者ノ飲酒弊害ノ漸ク大ナラトスルヲ見テ即チ調査委員ヲ任命シ少年ニ酒ヲ賣ルコトニ據テ生スル所ノ弊害ノ度如何ヲ審査セシメタルニ其ノ審査ノ結果ハ幼者ニ酒ヲ賣ルコトニ大害アル事實ヲ充分ニ證明セリ、但シ二十餘名ノ委員ハ自他ノ間多少見解ヲ異ニシ從テ其ノ調査報告書モ多數者ノ意見及少數者ノ意見ナル二種ニ分レ即チ多數者ハ酒ヲ幼者ニ賣ル者ト酒買ヒニ幼者ヲ遣ル父母ト併セテ罰スヘシト報告シ少數者ハ酒ヲ幼者ニ賣ル者ノ罰スヘシト報告セリ、少數者ハ更ニ附記シテ曰ク法律ハ輿論ニ適合セザルヘカラス而シテ幼者ニ酒ヲ買ハシメタル父母ヲ罰スルハ輿論ノ贊成スル所ニ非ス故ニ酒ヲ賣リタル者ノ罰スレハ足レリト、去レハ父母ヲ罰スヘキヤ否ノ件ニ付テハ多數少數ニ派ノ調査委員其ノ說ヲ異ニシト雖酒類ヲ賣リタル者ヲ罰スルノ件ニ關シテハ一派其ノ意見ヲ同フシテ而シテ亦實ニ全國輿論ノ贊成スル所ナリ此ノ故ニ余輩同志者ノ提出セル本案ハ全國輿論ノ後援ヲ得且政府ノ贊助ヲ得タルモノト云フヘシ何トナレハ調査委員ハ政府ノ代表者ニシテ而シテ本案ハ同委員全部ノ意見ニ符合スレハナリ、且又本案カ本院ニ提出セラレテヨリ以來或ハ個人ノ資格ヲ以テ或ハ團體ノ資格ヲ以テ本院ニ宛テタル稟訴請願書並ニ各議員ニ宛テタル勸告狀ハ其ノ數實ニ幾千萬通ナルヲ知ルヘカラス而シテ其ノ大部分ハ本案ノ通過ヲ懇請スル者ニ在ラサルハ無シ亦以テ本案カ輿論ヲ代表セルノ明證ナラム(大喝采)若夫レ本案ノ各條項ニ至リテハ其ノ字句中多少ノ修正ヲ要スルモノモアルヘシ本案ノ提出者ハ一字一句ノ修正ヲモ施スヘカサル議案トシテ之ヲ本院ニ提供セルニハ非ス、即チ幼者ニ酒類ヲ賣ルコトヲ禁止セムトスルヲ以テ本案ノ目的トナス(ヒヤ、ヒヤ)此ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ即チ足レリ、仰キ願クハ本案ヲシテ此ノ目的ヲ貫徹セシメヨ(拍手大喝采)

「クコムビー」氏ノ演說ハ之ニテ終了シ夫レヨリ討論ニ入ル  
「ホーツワース」氏(保守黨議員) 余ハ本案ヲ贊成ス、法案ニ對シテ熱心ナル同情ヲ表ス  
「ゼムツン」氏 余ハ本案ニ反對ナリ、併シ酒屋ト何か關係カアルカラ反對スルト看做レテハ迷惑ナリ、余ハ飲酒店ニハ何等ノ關係ヲ有セス(此トキ「ジョンストン」氏橫合ヨリ皮肉ノ質問ヲ試ミ火酒釀造所ニモ關係ナキヤト尋ネタリ、之ニハ「ゼムツン」氏頗ル閉口シタリト云フ、其ノ譯ハ氏ハ「ダブリン」市ニ於ケル有名ナル火酒釀造所ノ大株主ナレハナリ(余ハ決シテ自カラ爲メニスル所アツテ反對スル譯アハナイ、本案ハ結構ナ者アルカモ知ラヌカ併シ本案ニ由テ却テ秘密ニ酒ヲ飲ム弊害カ増長シヨウト思ハレル  
「タリー」氏 余モ亦本案ニ反對ス、尤モ余ハ幼者ノ飲酒スルコトヲ大ニ嫌惡スレトモ併シ法律ノ力ニ依テ此ノ弊害ヲ制止スルコトハ到底出來マイト思フ、是レ余カ本案ニ反對スル所以テアル  
「ルーカス」氏 本案ニ反對  
「トムキンソン」氏 本案ニ贊成  
「フロウワー」氏 本案ニ贊成  
「ブリーショーン」氏 本案ニ贊成(同氏ハ愛蘭ヨリ選出セラレタル少壯議員ニシテ熱心ナル贊成演說ヲ爲シテ議場ニ非常ノ感動ヲ與ヘタリ)  
「ミドルモア」氏 斯ル法案ニハ反對セザルヲ得ス、斯ル法案ハ破壊セザルヘカラス「ハルデー」氏 本案ニ贊成ス而シテ余ハ本案ニ對スル政府ノ意嚮ヲ尋問セムト欲ス  
(此トキ政府委員席ニ在リタル内務次官「コリンゲ」氏ハ直ニ起テ左ノ如ク答辯セリ)  
「コリンゲ」氏(内務次官) 内務大臣「リッチー」氏カ所勞ノ故ヲ以テ本日出席セラレサルハ余ノ深ク悲シム所テアル、併シ大臣カ居ラサルニモセヨ余ハ大臣ニ代リ責任ヲ以テ答辯スルコトカ出來ル、元來政府ハ本案ニ對シテ干渉スルコトヲ欲セス、本案ノ取捨ハ全ク之ヲ議員各自自由意思ニ放任スルコトニ政府ハ決定シテ居ル、本案ニ對シテ第二讀會ヲ開クコト、ナラハ内務大臣ハ其ノ時意見ヲ述ヘラル、テアロウカ併シ同大臣ハ本案ノ幼者年齡十六年ヲ改メテ滿十四年トナスヘシト豫テ申テ居ラレタ、又本案第二條中ニ「情ヲ知テ」ナル文字ヲ挿入スヘシト申シテ居ラレタ、此ノ意見ハ余モ同感テアル(「コリンゲ」氏ハ斯ク答辯シテ演說ノ局ヲ結ヒタリシカ其ノ終局ニ當リテ暗々裡ニ本案ニ對シテ同情ヲ表セザルカノ如キ口調ヲ漏シタリ)「ハーコート」氏(自由黨前内閣ノ内務大臣) 只今内務次官ハ其ノ答辯ノ結末ニ於テ酒類問題ニ關シテ法律ニ依テ幼者ヲ制裁スルハ不都合テアルカノ如キ口調ヲ漏サレタルカ併シ若シ之ヲ不都合ナリトスレハ普通教育問題ニ關シテ法律ニ依テ幼者ノ就學ヲ制裁スルコトモ亦不都合ト云ハネハナラヌ、法律ニ依リ幼者ノ就學ヲ督促スルハ何人モ是認スル所ナルト共ニ法律ニ依テ幼者ノ飲酒ヲ禁止スルコトモ亦之ヲ是認スヘキ筈テアル、故ニ余ハ政府カ本案ニ對シテ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘ以テ本案ノ成立ヲ贊助セムコトヲ希望ス、又余ハ本案ヲ法律調査委員會ニ付託セムコトヲ希望ス、何トナレハ本案ヲ全院委員會ノ議ニ付スルトキハ本案ハ恐ラク破碎スヘケレハナリ

「ハートレー」氏(倫敦市ノ選出議員 余ハ大ニ本案ニ反對ス、余ハ本案ノ破滅ヲ熱望ス)

「サントロウ」氏 余ハ本案ニ大賛成ナリ余ノ選出地ナル愛蘭ノ人民ハ其ノ政派宗派及階級ノ何ヲ問ハズ國民一般ニ本案ニ對シテ深厚ナル同情ヲ表シ本案ノ通過ヲ熱望セリ(拍手喝采) 本案ヲシテ當期議會ヲ通過セシムルハ全ク政府ノ責任ニ屬ス而シテ余ハ此ノ責任ヲ完フセムコトヲ政府ニ向テ懇望スル者ナリ(滿場拍手大喝采)

「サントロウ」氏 ノ演説ヲ了リタルハ午後五時過ナリシカ臈テ原案提出者ナル「クロンビー」氏ヨリ討論終結ノ動議ヲ提出セリ

○討論終結  
議長 只今「クロンビー」氏ノ提出セル討論終結ノ動議ニ就キ採決スヘシ

討論終結ヲ可トスル者 四百〇七人  
討論終結ヲ非トスル者 三十一人

○採決  
議長 次ニ第二議會ヲ開ク可キヤ否ヤニ付キ採決スヘシ、之ヲ開クヲ可トスル者ハ即チ「可」ト云ヒ之ヲ開クヲ否トスル者ハ即チ「否」ト云フヘシ

「可」ト云フ者 三百七十二人  
「否」ト云フ者 五十四人

依テ本案ハ非常ノ大多數ヲ以テ第二議會ヲ開クコトニ確定セラレタリ

是レヨリ先キ議長カ第二議會ヲ「可」トスル者過半數ナリト宣告スルヤ本案ノ反對者ナル「ゼムツン」「タリー」ノ諸氏ヨリ異議ヲ提出シテ「否」トスル者多數ナリト主張シ之レカ爲メ議場ハ一時混雜ヲ極メタルカ議長カ最後ニ「可」「否」兩派議員ニ起立ヲ命シ衆議院書記官ヲシテ其ノ頭數ヲ精算セシムルニ及ヒ前記ノ如キ結果ヲ得タルナリ

次ニ「クロンビー」氏ヨリ本案ヲ法律調査委員ニ付託スヘシトノ動議ヲ提出シ全院委員會ノ議ニ本案ヲ付スルコトノ不可ナル理由ヲ簡明ニ演説シタリシカ、時恰モ閉場時刻ニ接近セルヲ以テ當日ハ之ニテ閉場セラレタリ

又右ノ「可」三百七十二人ト「否」五十四人ヲ政黨ニ類別スレハ左ノ如シ

自由黨出席議員全部 百四十七人  
保守黨 百三十二人  
統一黨 四十二人  
國民黨 五十三人  
保守黨 四十三人  
統一黨 三人  
國民黨 十八人

「否」五十四人 此ノ内譯  
統一黨 三人  
國民黨 十八人

但シ自由黨ノ出席議員中「否」ニ賛成シタル者ハ一人モ無ク、則チ自由黨員ハ全部舉テ禁酒法案ノ贊成者ナリト知ルヘシ

又右表中ノ統一黨ハ「チャムバレン」氏「デボンシャイア」公等ト共ニ會テ自由黨ヨリ分離セル一派ニシテ國民黨ハ則チ愛蘭ヨリ選出セラレタル議員ノ團體ナリ又自由黨ノ名士ニシテ前内閣大臣タリシ「ハーコート」「ジョン、モレー」「バンナーマン」「アスゲス」「チャール、ブルク」等ノ諸氏ハ當日打捕ヲテ議場ニ出席シ熱心ナル拍手

手喝采ヲ以テ禁酒派ノ演説ヲ歡迎シ且採決ノ際「クロンビー」氏ノ動議ヲ賛成セリ、然レニ本案ニ反對シテ第二議會ヲ開クヲ「否」トセル保守黨員以下五十四名ノ議員中ニハ知名ノ人士皆無ニシテ平凡ノ議員ノミナリシハ當日ノ一奇觀ニテアリキ

「ハーコート」氏ハ「グラットストン」氏終身ノ親友ニシテ「グ」氏ト共ニ議場ニ出入セルコト數十年、其ノ間「グ」氏ト共ニ内閣ニ列セシコト前後數回ニ及ヘリ、自由黨中議院ノ經驗ニ於テ「ハーコート」氏ノ右ニ出ツル者ナク氏ハ實ニ自由黨中屈指ノ老政治家ナルカ禁酒法案第一議會ヲ終了セル後或ル人ニ語テ曰ク「クロンビー」氏ノ演説ハ余カ議院ニ於テ多年聽聞セル演説中最モ善美ナルモノノ一ナリト、以テ「クロンビー」氏演説ノ價值ヲ察スルニ足ラム

英國諸領地ノ酒類販賣ニ關シ幼者ニ酒類ヲ販賣スル者ヲ罰スル法律ハ大同小異ナルヲ以テ茲ニ之ヲ概括シテ幼者ノ年齡ト罰金ノ額ノミヲ略記スレハ左ノ如シ

「ノース、ウエスト、テリトリー」ニ於テハ幼者年齡十八年以下、初犯罰金二十五弗、罰金ヲ納付シ得サルトキ禁錮一箇月、再犯罰金五十弗、免許狀沒收罰金ヲ納付シ得サルトキハ禁錮二箇月

「オ」 幼者年齡二十一年以下  
罰金十弗以上五十弗以下

「プリンス、エドワード」島 幼者年齡十五年以下  
罰金十弗、酒類販賣營業六箇月停止、再犯ハ罰金二十弗、酒類販賣免許狀沒收

「グ」 幼者年齡十五年以下  
罰金二弗、罰金ヲ納付シ得サレハ禁錮二週

「セ」 幼者年齡十五年以下  
罰金十留、再犯以上ハ罰金二十留

「マ」 幼者年齡十六年以下  
罰金十磅以下

「ト」 幼者年齡十二年以下  
罰金五磅以下

「メ」 幼者年齡十六年以下  
罰金十磅以下、再犯以上ハ罰金二十磅以下

「ヴ」 幼者年齡十六年以下  
罰金二磅以上十磅以下

前記法律ノ統計 英國諸領地ニ於テ幼者ニ酒類ヲ販賣スルコトヲ禁止スル諸州ハ約三十箇ニシテ此ノ内幼者ノ年齡十六年以下ニ定ムルモノ十二箇、十五年以下六箇、十八年以下三箇、未成年者三箇、二十一年以下十四年以下十二年以下各二箇宛ナリ又罰金ハ平均五磅乃至十磅ナリ

米國未成年者飲酒禁止法理由書

未成年者ノ身體各部ノ組織ハ未タ完成セサルヲ以テ之ヲ老者ニ比スレハ「アルコール

ルノ侵害ヲ受クルコト一層多大ナリ其ノ最患ヲヘキモノハ全國都鄙幾萬ノ學生カ飲酒ノ爲其ノ目的タル學業ヲ成ス能ハサルニアリ是又明諸國カ幼者ノ飲酒取締ニ關シ特ニ嚴重ナル規定ヲ設クル所以ナリ

酒ハ人身ノ臟腑ヲ損傷シ血液ヲ汚敗シ腦髓ヲ侵害シ神經ヲ痲痺ス酒ハ疾病貧困犯罪等社會百害ノ最大原因ナリ

酒ハ國家ノ資力ヲ減殺シ國民ノ元氣ヲ消耗セシム酒ノ原質ハ酒精即チ「アルコール」ナリ然ルニ「アルコール」ハ「モルヒネ」又ハ「クロロホルム」等ニ均シキ毒藥ニシテ專門醫家ノ外ハ濫ニ之ヲ使用スヘキモノニアラス

「アルコール」ノ胃ニ入ルヤ胃液及唾液ヲ非常ニ分泌セシメテ消化機ヲ調和ヲ破リ且胃液中消化ニ必要ナル「ペプシネ」ノ作用ヲ妨害ス

「アルコール」ノ血管ニ入ルヤ血液中ノ酸素ヲ奪取シ水分ヲ減少シ蛋白質ヲ凝固セシメ以テ血液ノ作用ヲ失ハシム

「アルコール」ハ肝臟腎臟心臓等ニ危險ナル脂肪變化ヲ起シ肺臟ヲ侵害ス「アルコール」ハ神經及腦髓ヲ刺激シ殊ニ知覺感情ノ同府タル後腦部ハ「アルコール」ノ爲損傷セラルルコト最大ナリ

故ニ何等ノ點ヨリ觀察スルモ酒ノ人身ニ有害無益ノ毒物タルヤ明ナリ或ハ飲酒家ノ肥滿ヲ見テ健康ノ表顯ナリト云フ者アレトモ事實ハ正シク反對ニシテ其ノ肥滿ハ即チ不健康ノ證左ナリ蓋シ不淨ナル脂肪ノ凝積スルハ身體ニ害アリテ益ナケレハナリ或ハ酒ハ體温ヲ増進スト云フ者アレトモ是亦誤謬ノ見解ナリ酒ヲ飲ムトキハ其ノ刺激ニ由リテ體内ノ溫度外部ニ發出スルヲ以テ皮膚ノ神經ハ體温ノ增加ヲ感スト雖其ノ實外部ノ增加ハ内部ノ減少ニ由來スルヲ以テ全體ノ體温ハ寧ろ幾分カ減退スルモノトス或ハ又酒ハ勇氣ヲ鼓舞シ氣力ヲ振興スト云フ者アレトモ其ノ鼓舞振興タルヤ恰モ鞭ノ馬ニ於ケルカ如ク鞭ヲ加フル愈々激シケレハ馬ハ唯々益々疲勞スルノミ

要スルニ酒類ハ個人又ハ社會ヲ害スル各種ノ毒惡物中ニテ其ノ最タルモノナリ故ニ國家ハ之ヲ禁止スヘキ義務ヲ有ス國家既ニ阿片ヲ禁スル以上ハ酒類亦固ヨリ之ヲ禁セサルヘカラス蓋酒ノ害毒ハ阿片ニ比スレハ數倍甚シキモノアレハナリ之ヲ病患ニ喩フレハ阿片ハ「コレラ」「ベスト」ノ如ク酒ハ肺病、微毒ノ如シ肺病、微毒ノ害毒ハ「コレラ」「ベスト」ヲ如ク顯著ナラサレトモ其ノ陰險頑強ニシテ而カモ流毒範圍ノ廣大ナルハ「コレラ」「ベスト」等ノ遠ク及フ所ニアラス

法律ニ依リ未成年者ノ飲酒ヲ禁スルハ聊カ干渉ニ過ルノ嫌ナキ歟疑惑スル者アレトモ現代ノ若者ト現代ノ未成年者トノ關係ハ一家親子ノ關係トモ異ナルナク即チ吾人國民ハ將來ノ良民トナルヘキ未成年者ニ對シテ嚴重ナル親權ヲ施行シ之ヲ監督養成スヘキ大責任ヲ負擔スルモノナリ此ノ理ヲ了解スレハ前記ノ疑惑ハ自カラ氷解セバ或ハ又幼者禁酒法實行ノ困難ヲ說ク者アレトモ其ノ困難ハ獨リ同法ニ限ラルヘキニ非ス若シ之ヲ口實トシテ同法ノ廢棄ヲ唱フル者アラハ是強竊盜盜キサルノ故ヲ以テ之ヲ自由ニ放任スヘシト說キ實淫絶ヘサルノ故ヲ以テ之カ取締ヲ全廢スヘシト唱フル者ト何ゾ擇フ所アラム

茲ニ北米合衆國諸州ノ法典中ヨリ幼者ノ飲酒取締ニ關スル條項ヲ摘載シ以テ參稽ニ資セムトス

「アイワリ」州ノ法律

第二千四百三條 父母又ハ後見人若ハ醫者ノ保證狀ヲ有セサル幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタル者ハ二百圓ノ罰金ニ處ス但シ罰金ノ一半ハ該罪狀ノ告

發者ニ賦與シ一半ハ該罪狀發生地ノ學校基金中ニ寄贈スヘキモノトス

「オレゴン」州ノ法律

幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタル者並ニ幼者ヲ出入セシメタル飲酒店、料理店等ノ店主ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ一年以内ノ禁錮ニ處ス

右ノ場合ニ於テハ酒類販賣者又ハ店主ノ有スル營業免許狀ハ之ヲ官廳ニ沒收ス

幼者年齡ヲ詐リテ滿二十一年以上ノ成年者ト稱シ酒類ヲ購索シタルトキハ該幼者ヲ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

「イリノヰス」州ノ法律

父母若ハ後見人又ハ醫師ノ酒類購求委任狀ヲ有セサル幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタル者ハ四十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ十日以上三十日以下ノ禁錮ニ處ス

「ニイハンフシヤ」州ノ法律

飲酒店ノ店主又ハ酒類ヲ差出ス宴席ノ席主等ハ滿十六年以下ノ幼者ヲ出入セシメ又ハ列席セシムルコトヲ得ス此ノ條項ニ背反シタル店主席主等ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

「フロリダ」州ノ法律

第二千六百二十五條 葡萄酒、麥酒等苟モ多少ノ酒精ヲ含有スル飲料ヲ幼者ニ賣與シタル者ハ無免許密賣罪ニ依リ之ヲ處分ス

「アラバマ」州ノ法律

第三千五百二十一條 酒類販賣ノ免許ヲ出願スル者ハ幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與セサルヘキ旨ヲ嚴正ニ宣誓シタル誓約書ヲ當該官廳ニ差出スコトヲ要ス

紐育州ノ法律

酒稅法第三十條 會社又ハ個人ニシテ酒類販賣ヲ營業スル者ハ滿十八歲以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與スルコトヲ得ス

「ミシシッピ」州ノ法律

第三千九條 父母或ハ監督者又ハ後見人ノ記名セル酒類購求認許狀ヲ有セサル幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタルモノハ失行罪トシテ之ヲ處分シ百圓以上四百圓以下ノ罰金ニ處ス

「ウタハ」州ノ法律

第四千二百四十五條 何人ニ限ラス幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタル者ハ失行罪トシテ之ヲ處分シ二百圓以下ノ罰金ニ處シ三箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第四千二百四十六條 飲酒店ノ營業者幼者ヲ登店セシムルトキハ失行罪トシテ之ヲ處分ス

又同州ノ酒類取締法中ニ左ノ一節アリ

酒類販賣營業免許ヲ出願者ニ對シ當該官廳ハ之ニ免許狀ヲ下符スル前豫メ誓約書ヲ差出サシムルコトヲ要ス

該誓約書中ニハ該出願者滿二十一年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與シタルトキハ償金七千圓ヲ差出スヘキコトヲ記載セシムルモノトス

又該誓約書中ニハ該出願者ノ販賣シ又ハ給與シタル酒類ヲ飲用シタル者ノ醉狂ニ

又該誓約書中ニハ該出願者ノ販賣シ又ハ給與シタル酒類ヲ飲用シタル者ノ醉狂ニ

又該誓約書中ニハ該出願者ノ販賣シ又ハ給與シタル酒類ヲ飲用シタル者ノ醉狂ニ

又該誓約書中ニハ該出願者ノ販賣シ又ハ給與シタル酒類ヲ飲用シタル者ノ醉狂ニ

又該誓約書中ニハ該出願者ノ販賣シ又ハ給與シタル酒類ヲ飲用シタル者ノ醉狂ニ

由リテ生シタル一切ノ損害ハ該出願者總テ之ヲ賠償スヘキコトヲ記載セシムルモノトス

「ウイズコンシン」州ノ法律  
第一千五百五十七條 飲酒店營業者、酒類販賣者其ノ他何人タルヲ問ハス幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ之ヲ給與シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ三十日以下ノ禁錮ニ處ス

「ミズシッピ」州ノ法律  
第一千五百九十四條 幼者ニ酒類ヲ販賣スル者又ハ之ヲ給與シタル者ハ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ六箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第一千六百七條 飲酒店營業者若シ幼者ヲ登店セシムルトキハ四十圓以上一千圓以下ノ罰金ニ處シ二箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第一千六百八條 滿二十一歳以下ノ幼者其ノ年齢ヲ詐リテ成年ナリト稱シ飲酒店ニ入りタル場合ニ於テ年齢詐稱ノ證據ヲ發見シタルトキハ該幼者ヲ四十圓以下ノ罰金ニ處シ十日以下ノ禁錮ニ處ス

「モンタナ」州ノ法律  
第五百四十條 飲酒店又ハ酒類ヲ販賣スル料理店ノ營業者若シ幼者ヲ登店セシメタルトキハ失行罪トシテ之ヲ處分ス

第五百四十一條 何人ニ限ラス幼者ニ酒類ヲ販賣シ又ハ給與セムトスルトキハ其ノ父母又ハ監督者ノ認可ヲ受ケサルヘカラス若シ其ノ認可ヲ經シテ之ヲ販賣シ又ハ給與シタルトキハ販賣者又ハ給與者ハ幼者ノ醉狂ニ由リテ生シタル金銀上若ハ財産上等ノ損害ヲ賠償シ且失行罪ノ處分ヲ受クヘキモノトス

英國ニ於ケル幼者酒類販賣禁止ニ關スル實況  
英國希望協會ノ運動 十有五年前即チ千八百八十六年五月十五日ヲ以テ英國希望協會ハ幼者酒類販賣禁止ニ關スル意見書一百萬部ヲ印刷シテ之ヲ全國ニ配布シ大ニ輿論ヲ喚起シタルシカ同書ノ主意ハ幼者ヲ使テ酒類ヲ購求スルトキハ幼者ノ身體上及精神上ニ間接ニ直接ニ非常ノ惡影響ヲ及ボスモノアルカ故ニ幼者ヲシテ酒類ヲ購求セシムルコトハ斷然禁止セサルヘカラスト云フニ在リ

「コーニヒル」氏ノ提出議案 衆議院議員「コーニヒル」氏ハ千八百八十六年ハ議會ニ於テ幼者ニ酒類ヲ賣ルコトヲ禁止スルノ法案ヲ提供セリ當時議院内外ノ同志者ハ右法案ヲ通過セシメンカ爲メ大ニ運動シタルトモ不幸ニシテ議會ノ委員會ニ於テ修正セラレタリ即チ原案ニ於テハ酒類販賣ノ場所ニ於テ該酒類ノ消費セラルルト否トヲ問ハス幼者ニ酒類ヲ賣ルコトハ一切之ヲ禁止スルノ法案ナリシニ修正案ハ酒類販賣ノ場所ニ於テ該酒類ノ消費セラルヘキ場合ニ限リ之ヲ幼者ニ賣ルコトヲ禁止スルコトトセルカ故ニ幼年ハ父兄等ノ爲メニ酒類ヲ買テ之ヲ持チ去ルコトヲ得ルナリ斯ル不完全ノ修正案ニテハ固ヨリ有志家ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルヲ以テ禁酒同盟會希望協會其他ノ同志者ハ相一致シテ貴衆兩院ノ各議員ニ意見書ヲ送リ「コーニヒル」氏ノ原案ヲ復活セシメンコトヲ請求シタルトモ遺憾ナカラ貴衆兩院ハ委員會ノ修正案通り可決セリ即チ左ノ如シ

酒類取締法(修正案)千八百八十六年可決  
酒類販賣營業免許ヲ有スル者情ヲ知テ滿十二年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ其買入ノ場所ニ於テ使用消費セシムルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス

右ノ法律ハ議會ニ於テ可決セラレタル後直ニ施行セラレタレトモ格別善良ナル結果ヲ奏スルコトヲ得サリキ何トナレハ該法律ノ下ニ於テ幼者ハ酒ヲ買フタル場所ニテ飲ムコトヲ禁セラルルニ止リ他ハ携帶シ行クコトハ自由ナルカ故ニ幼年飲酒禁止ノ大目的ハ斯ル不完全ナル法律ニ依テ決シテ之ヲ達スルコトヲ得サレハナリ

各國體ノ運動 希望協會、禁酒同盟會、幼者飲酒禁止同盟會等ノ諸團體ハ千八百九十一年十月更ニ一百萬部ノ禁酒意見書ヲ印刷シテ之ヲ全國ニ配布シ酒類ノ弊害ヲ國民ニ知悉セシメ輿論ノ力ニ依テ前記「コーニヒル」氏ノ原案ヲシテ議會ヲ通過セシメントセリ然レトモ今回モ亦議會ニ於テ否決セラレタリ

「ハルデン」氏ノ議案 同氏モ亦千八百九十六年ヲ以テ幼者飲酒禁止法案ヲ議會ニ提出シタルトモ是亦成功セサリキ

其後ノ形況 是レヨリ先キ禁酒ヲ主張スル各種團體並ニ慈善有志家等ハ前記ノ如ク數百萬部ノ意見書又ハ雜誌ヲ全國ニ頒布シ或ハ演說ニ講話ニ遊說ニ百方手段ヲ盡シテ酒類ノ弊害ヲ人民ニ知ラシメタルヲ以テ飲酒上ニ於ケル諸種ノ惡習慣漸ク改善セントスルノ狀況ヲ示シ殊ニ幼者ヲ使テ酒ヲ買ハシムルノ惡習著シク減少シ從前夜ノ十一時頃迄續々トシテ幼者カ酒買ヒニ往來セル街衢モ近來ハ晚方ヨリ此ノ如キ兒女ノ隻影ヲ見サルニ至レリ又夜間兒女ヲ使ニ出スノ結果ハ兒女ノ朝寢ト爲リ從テ每朝小學校ハ出席スル者ノ數ヲ減シ此弊害ハ就中下層社會ニ於テ甚シカリシモ近來幼者ヲシテ夜間使ヘシムル惡習ノ大ニ減少セルカ爲メ自然幼學兒童ノ數ニ増加ヲ來シタリ一小習慣ノ改良ト雖モ其成績此ノ如ク著明ナルカ故ニ若シ吾人ノ熱望スル如ク幼者ノ飲酒ヲ全ク嚴禁シ幼者ニ酒類ヲ賣ルコトヲ禁止スルニ於テハ其功蹟ノ偉大ナル實ニ測リ知ルヘカラスアルヘシ、又前記諸團體ヲ初メ有志諸士ハ爾來「ロンドン」、「マンチエスター」、「リバプール」、「ダブリン」等ノ諸都會ヲ中心トシテ禁酒運動ヲ繼續シツアルヲ以テ「コーニヒル」、「ハルデン」諸氏ノ法案ハ不幸ニシテ破レタリト雖モ是等運動カ間接ニ直接ニ好果ヲ奏セルコトヲ妙ナシトセス

其他ノ運動 各寺院、諸教會、市會、町會幼者保護會、學務委員會等ハ一方ニ於テ政府及議會ニ向テ禁酒運動ヲナスト同時ニ他方ニ於テハ酒屋運動ヲ開始シ全國ノ酒類販賣營業免許ヲ有スル者ヲ訓戒シテ幼者ニ酒ヲ賣ルヘカラスル理由ヲ說示セリ

禁酒運動ノ反對者 由來實業家ト稱スルノ徒ハ唯是レ我田引水ノ私利我慾ノ輩ノミ彼等ノ眼中ニハ唯金錢アルノミ彼等ハ牽強附會ノ說ヲ捏造シテ内務大臣及議會ニ宛テ幼者ニ酒類ヲ販賣スルモ敢テ弊害ナキ旨ヲ具申シタルトモ固ヨリ一顧ノ價值タモナキモノトス

調查委員會 禁酒運動益、激甚ヲ加フルニ從テ政府モ之ヲ默視スルヲ得ス即チ調查委員會二十四名ヲ任命シテ幼者ニ酒類ヲ賣ルコトニ由テ生スル所ノ弊害ノ度如何ヲ調査セシムルコトヲハナレリ

調查委員會ノ報告 該報告書ハ實ニ數千頁ノ記事ヨリ成ルモノナルカ各頁悉ク幼者ニ酒ヲ賣ルノ弊害ヲ證明スルモノニ非サルハナシト云フモ敢テ過言ニ非ス又該報告ハ多數者ノ意見ト少數者ノ意見ト甲乙二種ヨリ成ルモノニシテ二種共ニ滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルヲ以テ弊害アルモノト認定セリ但シ委員會二十四人ノ内四名丈ケハ多數者及少數者ノ意見ニ反對シ幼者ニ酒ヲ賣ルモ全ク弊害ナ

シトノ意見ナリシカ此四名ハ即チ例ノ實業家中ヨリ撰拔セラレタル委員ナレハ彼等カ弊害ナシト言フモ無理ナラサル次第ナリ扱又右甲乙二種ノ報告ハ左ノ如シ

(甲) 多數者報告

酒類販賣ノ場所ニ於テ該酒類ノ使用消費セラレルト否トヲ問ハス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルトコトハ一切之ヲ禁止スヘシ又該年齡ノ幼者ヲ酒類ヲ買ニ遣リタル者ハ之ヲ賣リタル者ト同罪ニ處スヘシ

(乙) 少數者報告

酒類販賣ノ場所ニ於テ該酒ノ使用消費セラレルト否トヲ問ハス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルトコトハ一切之ヲ禁止スヘシ即チ見ルヘシ少數報告者ハ幼者ヲ酒類ニ遣リタル父兄ヲハ之ヲ賣リタル者ト同罰ニ處スルノ意見ヲ闕クト雖モ幼者ヲシテ酒ヲ買ハシムルノ弊害ハ少數者多數者ノ共ニ等シク認定スル所ナルヲ

法律改正ノ必要 前記二十四名ノ調査委員ハ最も公平ニ撰拔セラレタル者ニシテ而カモ其報告右ノ如クナルカ故ニ從來ノ幼者酒類販賣取締法ヲ改定シテ一層嚴重ナル法律ヲ設クルノ必要ハ朝野ノ均シク是認スル所トナレリ

英國ノ諸領地ニ於ケル法律 幼者禁酒運動ハ歐洲大陸諸國ニ於テモ將ニ熾ンナラントス然トモ外國ノ禁酒形況記事ハ之ヲ他日ニ讓リ本誌ニ於テハ專ラ我英國ニ關スル禁酒運動ノ成否如何ヲ敘述センニ我屬地及殖民地ノ現況ハ左ノ如シ

「アンチグワ」ノ法律

千八百七十九年「アンチグワ」ニ於テ制定セラレタル法律ハ左ノ如シ  
酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス

「ベルムダ」ノ法律

千八百八十年「ベルムダ」ニ於テ制定セラレタル法律ハ左ノ如シ  
酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者カ飲用スルヲ知テ之ニ酒類ヲ賣ルトコトヲ得ス  
前項ヲ犯シタルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處シ並ニ該罪犯ノ告發ニ關スル一切ノ費用ヲ該犯罪者ヨリ徴收ス又再犯ノ場合ニ於テハ前記罰金及告發入費ノ外ニ酒類販賣免許ヲ三箇月以内停止シ三犯ノ場合ニ於テハ酒類販賣營業ヲ禁止ス

「ゲーブ、コロニー」ノ法律(千八百八十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ又ハ飲用セシメタルトキハ十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス  
「セーロン」ノ法律(千八百九十一年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者又ハ飲食店ノ店主タル者滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシメタルトキハ十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ二十志以下ノ罰金ニ處ス  
「フランクランド」島ノ法律(千八百八十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ消費セシムルトキハ十志以下ノ罰金ニ處シ且初犯ニ於テハ酒類販賣ノ免許ヲ六箇月間停止シ再犯以上ニ於テハ該免許ヲ取上テヘキモノトス又該免許ヲ有スル者ニシテ旅店飲

食店等ノ營業者ナルトキハ再犯以下ニ於テハ該營業ヲ二年以上五年以下停止ス  
何人タルヲ問ハス滿十二年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ之ヲ持チ去ラシメタルトキハ五志以下ノ罰金ニ處ス

「ガムビア」ノ法律(千八百九十四年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシメタルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス  
「デプロター」ノ法律(千八百八十五年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ兒女ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシメタルトキハ二十五「ペセタ」以下ノ罰金ニ處シ再犯ニ於テハ五十「ペセタ」以下ノ罰金ニ處シ三犯ニ於テハ百二十五「ペセタ」以下ノ罰金ニ處ス  
「グレナダ」ノ法律(千八百九十六年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十二年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ又ハ人ヲシテ賣ラシメタルトキハ五十志以下ノ罰金ニ處ス  
八島ノ法律(千八百九十七年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十四年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ又ハ人ヲシテ販賣シ若クハ交付セシメタルトキハ四十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五志以下ノ罰金ニ處ス  
「マルタ」島ノ布告(千八百八十二年發布)

何人ニ限ラス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣スルコトヲ得ス  
「マニトバ」ノ法律(千八百九十一年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類供給シタルトキハ二十五弗ノ罰金ニ處シ他ノ命ヲ受テ酒類實地供給シタル者モ同罪ニ處ス  
罰金ヲ納付シ得サル場合ニ於テハ一箇月ノ禁錮ニ處ス再犯ニ於テハ五十弗ノ罰金ニ處シ之ヲ納付シ得サル場合ニ於テハ二箇月ノ禁錮ニ處シ酒類販賣ノ免許ヲ沒收ス

海峽殖民地ノ法律(千八百七十八年制定)

何人タルヲ問ハス滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシメタルモノハ十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ニ於テハ二十志以下ノ罰金ニ處ス  
「ナタル」ノ法律(千八百九十六年制定)

酒類小賣營業免許ヲ有スル者滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處ス  
「ニュー、ブランスウイツク」ノ法律(千八百九十六年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者未成年者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ給與スルトキハ十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ二十志以下ノ罰金ニ處ス(他ノ命ヲ受ケテ酒類ヲ實地販賣シ若クハ給與セル者モ亦同罰ニ處ス)

「ニュー、フランドランド」ノ法律(千八百九十五年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十八年以下ノ少年ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付スルトキハ五十志以下ノ罰金ニ處ス  
「ニュー、サウス、ウニールス」ノ法律(千八百九十八年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シテ

之ヲ飲用セシムルトキハ十磅以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十磅以下ノ罰金ニ處ス他ノ命ヲ受テ酒類ヲ實地販賣シ若クハ交付セル者モ亦同罰ニ處ス

〔二ニユー、ゼーランド〕ノ法律(千八百八十一年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ供給シテ之ヲ飲用セシムルトキハ十磅以下ノ罰金ニ處シ他ノ命ヲ受テ酒類ヲ實地供給セル者モ亦同罰ニ處ス

初犯ニ於テハ酒類販賣免許ヲ六箇月間停止再犯以上ニ於テハ該免許ヲ沒收ス

南部濠洲ノ法律(千八百八十年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十五年以下ノ兒女ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシムルトキハ二十五磅以上五磅以下ノ罰金ニ處ス

濠洲「アインズランド」ノ法律(千八百八十五年制定)

飲食店ノ店主又ハ酒類小賣營業人タル者滿十四年以下ノ兒女ニ酒類ヲ販賣供給シタルトキ又ハ滿十八年以下ノ兒女ニ酒類ヲ販賣供給シテ之ヲ飲用セシメタルトキハ一磅以上五磅以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ三磅以上十磅以下ノ罰金ニ處シ且ツ罪犯告發ノ費用ヲ納付セシム

○松田源治君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成ヤ〕ト呼フ者アリ

○副議長(關直彦君) 松田君ノ動議ニ御贊成デアリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(關直彦君) 御異議ガナケレバ九名ノ議長指名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマシタ、次ハ日程第二、水道條例中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ハ省略イタシマス——井上角五郎君

第三 水道條例中改正法律案(井上角五郎君外五名 第一讀會 提出)

水道條例中改正法律案

第二條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

同條第二項ヲ削ル

第三條第二項中「元資償却ノ方法」ヲ削ル

第十七條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ必要ナル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ必要ナル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十一條 內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

○井上角五郎君 極メテ簡單デゴザイマスカラ、本席テ述ベルコトヲ御許シテ願ヒマス

○副議長(關直彦君) 御登壇ヲ願ヒマス

〔井上角五郎君登壇〕

○井上角五郎君 本案ハ昨年ノ議會ニ提出致シマシテ、衆議院ハ之ヲ贊成シ、政府委員ハ又相當ノ修正ヲ望ミマシテ其修正ノ通り可決致シテ貴族院ニ送リマシタガ、貴族院ガ遂ニ議了スルニ至ラザリシ問題デアツデ、各地其急告ケルモノガ甚ダ多イノテゴザイマスカラ、ドウカ今年ハ速ニ手續了了シテ可決セラル、ヤウニ希望致シマス

○松田源治君 本案モ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(關直彦君) 松田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(關直彦君) 御異議ナケレバ其通り決定致シマシタ、次ハ日程第四、私設運河法案第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ハ省略イタシマス——漆昌巖君

第四 私設運河法案(漆昌巖君提出) 第一讀會

私設運河法案

第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル私設運河ニ適用ス

第二條 本法ニ依リ私設運河ヲ施設セムトスル者ハ株式會社ヲ發起シ左ノ書類及圖面ヲ具シ其ノ免許ヲ主務官廳ニ申請スヘシ

一 定款

一 起業方法書

一 設計略圖及說明書

一 工費概算及收支概算書

第三條 主務官廳ハ前條ノ書類圖面ノ外必要ト認ムル書類圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四條 主務官廳ハ公益上必要ト認ムルトキハ申請事項ヲ變更セシメ又ハ免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第五條 定款ノ變更又ハ工事設計ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 免許ニハ工事施行認可申請ノ期限ヲ附ス

私設運河法案 第一讀會

第七條 會社ハ免許ニ附シタル期間内ニ實測設計ノ上工事著手期ヲ定メテ

工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ  
免許ニ附シタル期間内ニ會社カ成立セス又ハ工事施行ノ認可ヲ申請セサ

ルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ノ事由アリテ延期ノ認可ヲ受ケ

タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
工事施行ノ不認可ハ免許ノ效力ヲ失ハシム

工事施行ノ認可ニハ工事竣功ノ期限ヲ附ス此ノ期限ノ效力ニ關シテハ前

項ノ規定ヲ準用ス  
第八條 株式ハ金銀ヲ以テスルノ外之ヲ引受クルコトヲ得ス

株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下クルコトヲ得  
第九條 會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ業務ヲ兼營スルコ

トヲ得ス  
第十條 主務官廳ハ會社ノ工事ヲ監督シ何時ニテモ會社ヲシテ其ノ事業ノ

報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及工事ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得  
第十一條 會社カ工事方法書又ハ法令ニ違反シテ工事ヲ施行シタルトキハ

主務官廳ハ其ノ除却若ハ改築ヲ命シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得  
第十二條 會社カ法令ノ規定又ハ免許ニ附シタル條件ニ依リ命令シタル施

設ヲ爲ササルトキハ主務官廳ニ於テ之ヲ施行シ會社ヲシテ其ノ費用ヲ辨

償セシムルコトヲ得  
第十三條 會社ハ通航料其ノ他運河ニ關スル料金ノ賃率ヲ定メ主務官廳ノ

認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ  
主務官廳ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ賃率ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十四條 政府ハ營業開始ノ日ヨリ滿二十五箇年後ニ於テ運河及附屬物件

ヲ買上クルノ權利ヲ保有ス  
第十五條 前條ニ依リ運河及附屬物件ヲ買上クルトキハ前五箇年ノ株券價

格ヲ平均シテ買上價格ト定ム  
第十六條 會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運河及附屬物件ヲ讓

渡シ又ハ債務ノ擔保ニ供スルコトヲ得ス  
第十七條 會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ増資ヲ爲シ又ハ他ノ

會社ト合併スルコトヲ得ス  
第十八條 左ニ掲グルモノヲ以テ運河ノ用地トス

一 水路用地其ノ兩側ノ道路、堤防、架橋、工事用地並工事用材料運搬ニ

要スル敷地  
二 繫船場、信號所、貨物揚場、貨物置用上屋、貨物倉庫等ノ敷地

三 運河ニ屬スル船舶其ノ他修理工場敷地  
四 資料、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫ノ敷地但シ運河ニ沿ヒタル土地ニ限

ル  
五 運河營業從事員ノ役宅並從事員ノ駐在所等ヲ建設スル土地

第十九條 政府ハ公益上必要ト認ムルトキハ拂込資本金ニ對シ工事著手ノ

日ヨリ滿五箇年間ハ年五分以下ニ相當スル金額ヲ補助スルコトヲ得  
第二十條 政府ハ交通機關ノ完備ヲ圖ル爲保護上必要ト認ムルトキ又ハ工

事上必要缺クヘカラサルモノト認ムルトキハ運河敷地以外ノ官地ヲ特ニ

拂下及貸下又ハ公有水面ノ埋立ヲ許可ス  
第二十一條 會社カ本法ノ規定又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル

トキハ取締役又ハ監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス  
第二十二條 過料ノ徵收ニ關シテハ非訟事件手續法ヲ適用ス

附則  
第二十三條 本法ノ施行ニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 本法施行前ニ既ニ得タル免許ハ本法ニ依リテ得タル免許ト看

做ス  
(漆昌巖君登壇)

○漆昌巖君 唯今問題ニナリテ居リマス此私設運河法案ハ、一條ヨリ二十四條マテ

成立シテ居リマスガ、至ッテ簡單ナルモノデ、此要旨ハ我國ハ陸上ノ交通ハ略々全備

致シマシタガ、未ダ其水陸連絡ノ交通ガ甚ダ不完全デアラウト考ヘルノデゴザイマス、此水

陸ノ連絡ヲ取ルタメニハ、運河ガ最モ必要デアラウト考ヘマス、然ルニ此運河法案ト云

フモノガゴザイマセヌタメニ、甚ダ手續ノ煩雜ヲ來シマスガラシテ、遂ニ其企畫者ヲシテ

心ノ儘ニ企畫スルコトガ今日マデ出來ナカッタラウト考ヘマスノデ、本案ハ昨年私設運

河築港ニ關スル建議案ト云フモノヲ出シマシテ、略々政府モ御同意ヲ下ステ、本年アタ

リハ多分政府案トシテ現ハレルデアラウト考ヘテ居リマシタガ、此ノ政變勞、殊ニ依ル

ト政府ハ御出シ下サルマイト思ヒマスカラ、本案ヲ提出致シマシテゴザイマス、ドウゾ宜シ

ク御贊成ヲ願ヒマス  
○松田源治君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(關直彦君) 松田君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ  
(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(關直彦君) ツレナラハ其通り決定致シマス、諸君ニ御諮リ致シマスガ、日

程第五ノ關稅定率法中改正法律案、是ハ提出者カラ延期ノ申出ガアリマスガ、延期シ

テ御異議ハアリマセヌカ  
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(關直彦君) ツレナラハ延期致シマス、次ニ日程第六、衆議院議員選舉法

中改正法律案、是モ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマス  
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(關直彦君) 御異議ガナケレバ延期スルコトニ致シマス、次ハ日程ノ第七、

紛爭仲裁法案第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ヲ略シマス  
第七 紛爭仲裁法案(高木益太郎君提出)

紛爭仲裁法案 第一讀會  
第一章 仲裁役職務

第一條 民事上ノ紛爭ヲ調和スル爲各市町村ニ仲裁役ヲ置ク但シ市町村ノ

小ナルモノハ他ノ市町村ト合シテ一人ノ仲裁役ヲ置キ大ナルモノハ數箇

ノ仲裁區劃ニ分ツコトヲ得  
市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ區毎ニ之ヲ置ク

仲裁役ノ職務執行ノ場所ハ市町村又ハ區ノ役場ニ之ヲ置ク但シ事件ノ性

質カ役場ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ許ササルトキ又ハ關係人疾病其ノ他正當ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 仲裁役ハ名譽職トス  
左ニ記載スル者ハ仲裁役タルコトヲ得ス

一 滿四十歳ニ達セサル者  
二 執務スヘキ仲裁區域内ニ住居セサル者  
三 市町村ニ於テ公民權ヲ有セス又ハ公民權停止中ノ者  
四 懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
五 禁治產者及準禁治產者

官吏並市町村區ノ吏員カ仲裁役ト爲ル場合ハ所屬官公署ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 仲裁役ハ市町村會又ハ市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス其ノ任期ハ三年トス但シ後任者ノ就職迄ハ從來ノ仲裁役其ノ職ヲ行フモノトス

第四條 仲裁役ニ選舉セラレタル者ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス  
第五條 仲裁役就職シタルトキハ其ノ住所ノ地方裁判所長ノ面前ニ於テ其ノ職務ノ執行前左ノ宣誓ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 仲裁役ニ對スル監督權ハ左ノ者ニ屬ス  
一 仲裁役ノ總員ニ付テハ司法大臣  
二 控訴院管内居住ノ仲裁役ニ付テハ控訴院長  
三 地方裁判所管内ノ仲裁役ニ付テハ地方裁判所長

仲裁役ハ職務執行上失當ノ行爲アリタルトキハ監督官之ヲ責問スルノ權ヲ有ス  
仲裁役ノ職務ノ執行又ハ其ノ遲滯ニ對スル抗告ハ管轄地方裁判所ニ之ヲ申立ツヘキモノトス

第七條 仲裁役ハ左ノ事由アルトキニ限り就職ヲ拒絕シ又ハ任期滿了前辭職ヲ爲スコトヲ得

一 滿六十歳ニ達シタルトキ  
二 三年以上名譽職タリシトキ  
三 疾病ニ罹リ其ノ任務ニ堪ヘサルトキ  
四 職業ノ爲長時間又ハ屢任所ヲ離レサルヲ得サル者

五 官文公吏タル者  
六 其ノ他正當ノ事由アル者

就職拒絕ノ當否ハ仲裁役ノ選舉權ヲ有スル市町村會又ハ區會ニ於テ之ヲ決定シ辭職ノ當否ハ地方裁判所長終局ノ裁決ヲ爲ス

第八條 仲裁役ノ在職ヲ許スヘカラサル事由ノ發生シタルトキ其ノ他重大ノ事由アルトキハ其ノ職ヲ免セラルヘキモノトス

免職ノ決定ハ仲裁役ノ住所ヲ管轄スル控訴院第一民事部ニ於テ本人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ爲ス

若本人呼出ニ應セサルトキハ闕席ノ儘直ニ決定スルコトヲ得

官報號外 大正二年二月二十八日 衆議院議事速記第五號 紛争仲裁法案

第九條 第八條規定ノ事由ナキニ仲裁役其ノ就職ヲ拒絕シ又ハ規定ノ在職期間中執務ヲ拒ムトキハ千圓以下ノ罰金ヲ宣告セラルルコトアルヘシ

此ノ宣告ハ仲裁役ノ住所ヲ管轄スル地方裁判所ノ第一刑事部ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第十條 仲裁役ニ一名ノ代理者ヲ附屬セシム代理者ニハ第二條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス

仲裁役並其ノ代理者共ニ執務ニ妨ケアルトキハ地方裁判所長ハ直近ノ仲裁役又ハ其ノ代理者ヲシテ一時其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十一條 市町村市町村ノ間ニ於ケル紛争又ハ調和ニ困難ナル紛争ニ付テハ當該仲裁役ノ申立ニ依リ監督官ハ府縣知事、郡長、市町村長、區長、警察署長、產業其ノ他ノ團體ノ首長、官公私立學校長、神官僧侶等ニ仲裁役ノ職務ヲ輔佐ヲ囑託スルコトヲ得

第二章 民事上ノ紛争ニ關スル仲裁手續  
第十二條 仲裁手續ハ財產權、親族相續ニ關スル紛争ニシテ法律上調和ヲ爲スヲ得ヘキ事柄ニ付之ヲ行フ

仲裁役ハ當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ求メアルトキ又ハ裁判上仲裁ニ附スル決定アルトキハ仲裁ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 當事者ニ對シ事件ノ解決ヲ強ユルコトヲ得ス  
第十四條 事件ノ管轄ハ申立人ノ相手方ノ住所ノ仲裁役ニ屬ス

第十五條 當事者ハ明示又ハ默示ノ合意ヲ以テスルトキハ當然管轄權ナキ他ノ仲裁役ニ事件ヲ管轄セシムルコトヲ得

第十六條 仲裁役ノ除斥ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス  
第十七條 仲裁役ハ左ノ場合ニ於テハ職務ノ執行ヲ拒絕スル權利ヲ有ス

一 當事者カ其ノ主張事實ヲ證明シ得サルトキ  
二 當事者ノ行爲能力又ハ處分能力ニ付又ハ法定代理ノ權限ニ付疑ノ虞アルトキ

第十八條 仲裁役ハ左ノ場合ニ於テハ職務ノ執行ヲ拒絕スルコトヲ得  
一 單ニ當事者ノ合意ニ依リ管轄ヲ生シタルトキ

二 紛争事件カ甚困難ニシテ調和ノ見込ナシト思料シタルトキ  
其ノ他法人ハ其ノ職員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第十九條 當事者ハ辯護士又ハ親族ヲ輔佐人ト爲スコトヲ得  
第二十條 仲裁手續ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ仲裁役ニ之ヲ爲スヘシ

若書面ニ依ラス口頭ヲ以テ之ヲ爲スルトキハ調書ニ筆記セシムルコトヲ得  
申立ニハ當事者ノ氏名年齢身分職業住所並紛争事件ノ表示及申立人ノ署名捺印ヲ要ス

第二十一條 仲裁事件ノ申立アリタルトキハ仲裁役ハ即時申立人ニ對シ仲裁ノ期日並場所ヲ指示シ請書ヲ徵スヘシ但シ申立人正當ノ事由ナクシテ指定期日ニ出頭セサルトキハ處罰セラルヘシ

又被申立人ニ對シテハ仲裁ノ期日並場所及正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ處罰ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタル呼出狀ヲ執達吏又ハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ要ス

第一讀會

三九

第二十一條 當事者ノ一方カ指定ノ期日ニ仲裁役ノ面前ニ出頭スルコトヲ

欲セサルカ又ハ出頭スルコト能ハサルトキハ遅クモ期日ノ前日迄ニ書面

ヲ以テ其ノ旨ヲ仲裁役ニ届出ツルコトヲ要ス此ノ届出ナカリシトキハ仲

裁役ハ期日ニ出頭セサル當事者ヲ五十錢以上二十圓以下ノ過料ニ處スル

コトヲ得

過料ノ言渡ニ對シテハ地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第二十二條 仲裁役ノ面前ニ於ケル當事者ノ陳述ハ口頭ヲ以テ爲スヘシ

仲裁役ノ審問ハ之ヲ公開セス

第一次ニ於テ終結セス又ハ仲裁役ニ於テ必要アリト認メタルトキハ更ニ

續行ノ期日ヲ定メ即時ニ當事者雙方ニ指示スルコトヲ要ス

此ノ期日ニ出頭セサル當事者ハ第二十一條ニ依リ過料ニ處セラルヘシ

第二十三條 仲裁役ハ任意ニ出頭シタル證人竝鑑定人ヲ當事者ノ同意ヲ得

テ審問スルコトヲ得

第二十四條 事件調和シタルトキハ調書ニ依リ之ヲ明確ニスルコトヲ要ス

其ノ調書ハ日本語ヲ以テ之ヲ作成スヘキモノトス

調書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一 仲裁ノ場所日時

二 出頭シタル當事者、法定代理人、輔佐人ノ氏名竝其ノ權限ヲ證明シタル

文書ノ表示

三 紛争ノ目的物又ハ事柄

四 仲裁成立ノ顛末

ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニハ公正證書ニ基ク強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十二條 裁判所ハ訴訟進行中ノ事件ト雖職權ヲ以テ本法ニ依リ仲裁ニ

附スルノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ訴訟ノ進行ヲ中止ス

第三章 告訴ヲ待テ訴追スヘキ刑事事件ニ關スル手續

第三十三條 告訴ヲ待テ訴追スヘキ刑事事件ニ在リテハ仲裁役ハ仲裁ヲ試

ムル權利ヲ有ス

第三十四條 前條ノ仲裁手續ハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章 費用

第三十五條 仲裁申立書竝仲裁調書ニ付テハ印紙ノ貼用ヲ要セス但シ當然

印紙貼用ノ義務アル法律行為カ仲裁ノ一部タリシトキハ當事者ハ印紙貼

用ノ義務ヲ有ス

第三十六條 當事者ハ仲裁事件ノ成立ト同時ニ印紙稅法ノ規定ニ從ヒ其ノ

調書ノ原本ニ印紙ヲ貼用スルコトヲ要ス

第三十七條 仲裁申立書ノ作成仲裁調書ノ正本謄本及證明書作成ノ爲ノ筆

記手数料ハ一枚金二十錢トス其ノ一枚ニ滿タサルモノハ之ヲ一枚ト看做

ス

第三十八條 手数料竝實費ハ其ノ事件ヲ惹起シタル當事者ノ負擔トス

仲裁カ成立シタルトキ又ハ當事者雙方ニ於テ仲裁ヲ求メタル場合ニ於テ

ハ手續ノ完結迄ニ生シタル手数料ハ各當事者平等ニ之ヲ負擔スヘキモノ

トス

必要ナル場合ニ於テハ仲裁役ノ決定ニ基キ手数料竝實費ヲ市町村稅徵收

ノ手續ニ依リ當事者ヨリ取立ツルコトヲ得

第三十九條 仲裁役ノ職務ヲ行フニ要スル經費ハ市町村又ハ區之ヲ負擔ス

數箇ノ町村又ハ區聯合シテ仲裁役ヲ置クトキハ其ノ經費ハ關係町村又ハ

區ニ於テ各人口數ニ應ジ之ヲ分擔ス

第四十條 手数料過料等ハ經費ヲ負擔スル市町村又ハ區ノ收入トス

第四十一條 本法ノ施行細則竝手数料ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○高木益太郎君 此席カラ御許シテ願ヒマス

○副議長(關直彦君) 御登壇ヲ願ヒマス

○高木益太郎君 諸君、本案ハ資本主ト労働者ノ間、又地主ト借地人トノ間、又地

主ト小作人トノ間、衝突、親子親族間ニ於ケル相續財産ノ分配、離婚、養子ニ關スル

紛争、其外民事ニ於ケルトコロノ和解ノ出來ル事柄ハ、總テ仲裁ヲ爲シ、刑事ニ於テモ

告訴ヲ待テ論ズル事件ハ、仲裁ガ出來ル方法ヲ執ル、斯ウ云フタメニ此紛争仲裁法ヲ

提案致シテアリマス、詳細ノ理由ハ、議長ノ許可ヲ得マシテ御手許ニ回シテアル此提

案理由書ヲ、其儘速記録ニ掲載ヲ願ヒマス、此案ニ付キマシテハ何卒諸君ノ充分ナル

御質成ヲ願ヒタイノデアリマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

紛争仲裁法案理由書

世ノ進運ト共ニ社會ノ狀態ハ益々複雑ヲ極メ隨テ個人又ハ團體間ノ紛争ハ愈々多端ヲ

加フルハ勢ノ免カレサル所ナリ蓋シ現今社會政策ノ實施ハ宇内文明諸國ノ政府カ

2112

銳意意ラサル所ニシテ我カ國ト雖亦以テ今日其ノ社會ノ情態ニ鑑ミ之カ實施ノ必  
要ヲ認ムルヤ甚急ナリト謂フヘシ

願フニ近世人文ノ進歩發達ニ隨伴シ交通開拓ノ頻繁ヲ誘致シ商工業ノ發展産業  
ノ般盛勃興ハ時々一張一弛ノ止ム能ハサルモノアリト雖之ヲ昔日ニ比スレハ霄壤モ  
畜ナラサルナリ如クニシテ國民ノ社會組織ヲ益々複雜ナラシメ從テ個人對個人、團  
體對團體、階級對階級トノ利害衝突ハ一層ノ頻繁增加ヲ致サムコト之レ數ノ免カ  
レサル所ナリ若夫レ社會萬般ノ紛糾錯雜斯ノ如ク續出限リナキ人事ノ諸關係ヲ一  
ニ權利義務ヲ規定スル法律ニノ依リテ解決セムトスルハ到底不可能ノ事ト云フヘキ  
ナリ

翻テ泰西諸國ニ於ケル資本主ト勞働者トノ間ニ起レル衝突カ如何ニ貧富懸隔ノ甚  
シキモノアルカ見ヨ其ノ産業界ニ慘憺タル惡影響ヲ與ヘツツアルハ顯然タル事實ニ  
非スヤ又地主ト借地人トノ衝突ノ如何ニ地主カ借地人ノ怨府ト爲リツツアルカハ是  
レ亦覆フヘカサル事實ニ非スヤ又彼ノ親子又ハ親族間ニ於ケル相續財產ノ分配若  
ハ離婚養子等ノ諸問題ニ付テ如何ニ各國政府カ苦心シツツアルカ知ルヘシ而シテ  
此等ニ對スル救濟的社會政策ノ實施ニ付テ各國政府カ第一ニ採用シツツアル有效  
ノ手續ヲ仲裁制度ト爲ス

英國ニ於テモ既ニ前大法官ロアバーン卿ハ曾テ正義ノ遲延ハ正義ノ拒絕ニ等シト喝  
破シ大ニ部下判事ノ覺醒ヲ促シ又米國曩ノ大統領タフト氏モ屢訴訟ノ遲延ヲ痛嘆  
セシト一再ナラスシテ民事訴訟手續ノ改正ヲ企畫スル所アリタリ而シテ此ノ訴訟ノ  
遲延タルヤ或ハ幾部分其ノ訴訟手續ノ不完全ナルニ基因スト雖社會事情ノ複雜ニ  
伴フ訴訟ノ増加ハ其ノ重ナル原因ニシテ限リナキ人事ノ紛争ヲ限リアル司法裁判  
所ニ於テ悉ク其ノ解決ヲ求メトスルハ抑亦至難ノ事ニ屬ス

現ニ英國ノ如キハ一昨年來其ノ高等法院ノ判事ヲ増加スルノ議起リ昨年ヲ以テ之  
ヲ實行シタリト雖今日ニ於テハ猶其ノ缺乏ヲ訴ヘツ、アリト  
同國ノ如キ各種仲裁機關ノ完備セル國ニ於テ猶且然リ況ヤ未ダ全ク是等ノ機關ヲ  
缺ケル我カ國ニ於テ早晚此ノ現象ヲ見ルニ至ルヤ必セリ殊ニ又今日ノ司法制度ニ於  
テ最悲ムヘキ事實ハ多額ノ訴訟入費ト過重ノ訴訟印紙稅ト負擔セサルヘカサル  
コトニシテ裁判ハ二四年ヲ費シテ漸ク其ノ勝訴ニ歸スル場合アリトスルモ其ノ得ル所  
ハ費ス所ヲ償フニ足ラサルコトナリトス故ニ成ルヘク争訟ヲ爲サシメサラムコトヲ欲セハ  
仲裁ノ制度ヲ設クルヨリ急ナルハナク是レ實ニ時弊救濟ノ最大要務ナリト云ハサルヘ  
カラス蓋シ個人ハ之ニ依リ其ノ融和ヲ得テ無益ノ費用ト時間トヲ省キ亦國家ハ多大  
ノ經費ヲ節スルコトヲ得ハ是レ所謂一舉兩得ノ利益ヲ收ムルモノト云フヘシ

曾テ大審院長横田國臣君ハ今日ノ司法裁判所ノミヲ以テ國家ノ治安ヲ保ツノ不  
可能ナルヲ論シ情實裁判所設置ノ必要ヲ唱道セラレタルコトアリキ  
昔者徳川幕府時代江戸ニ於ケル公事訴訟ノ慣例ヲ按スルニ先ツ訴訟前ニ於テ其ノ  
町内ノ自身番ニ詰メ居ル町役人即チ五人組及大家等カ其ノ事件ニ干渉シ仲裁ヲ  
試ミ而シテ當事者ノ飽迄強硬ニシテ融和セズ其ノ仲裁ニ服セサル時初メテ町奉行所  
ヘ訴ヘ出ツルモノナレトモ恐ラク十中八九ハ所謂自身番仲裁ニ依リ事件ノ解決ヲ  
得タリ若自身番仲裁不調ニ依リ奉行所ヘ出訴ノ場合ニ於テモ必ス五人組ト大家ト  
ノ附添アリニ非サレハ其ノ訴ヲ受理セサル制度ナリキ又田舎ニ於ケル村民間ノ衝突ノ  
如キモ村内長老又ハ名主ノ仲裁ニ依リ十中八九ハ其ノ調和ヲ見ルニ至レリ

人或ハ幕府政治ノ壓制ヲ非難スレトモ其ノ中ニ就キ是ノ如ク今日ノ自治制度ニ見  
難キ美點ノ存スルモノナキニ非ス  
維新後ニ於テモ明治九年甲第十七號達ヲ以テ民事ノ訴訟ハ成ルヘク治安裁判所  
ノ勸解ヲ請フヘキ旨ヲ布令シ明治二十三年民事訴訟法ノ實施迄此ノ規則ノ實行  
ヲ見タリキ

(參照) 明治二十三年勸解出願統計三十九万七千七百二十二件(調停)二十一  
万五千八百八十六件(不調)十万八千八百七十二件ナリ  
此ノ勸解制度ニ依リテ貧富ノ衝突ヲ防遏シ彼ノ貧困ノ債務者ニ對シ勸解吏ハ其  
ノ債務ノ履行ニ恩惠期限ヲ與ヘ以テ惡辣ナル債權ノ執行ニ對シ相當ノ調和策ヲ講  
スルヲ常トセリ

之ヲ外國ノ例ニ見ルニ英國ハ羅馬法ヲ踏襲シテ往古ヨリ仲裁制度ヲ採用シ之ニ關  
スル法律ハ數度發布スル所アリタルカ途ニ是等ノ條例ハ一八八九年ノ仲裁法ヲ以テ  
統一セラレ民事事件ノ多クハ其ノ訴訟前ニ於テ仲裁人ノ解決ニ待ツ處多シ殊ニ市  
町村間ノ土地收用ニ關スル地方廳ト人民トノ紛争、地主ト小作人トノ紛争、職工ノ  
住家ニ關スル家主トノ紛争、職工ノ賠償ニ關スル紛争等ニハ強制的ニ此ノ仲裁法ヲ  
適用シツツアリ現蘇格蘭ノサザーランド侯爵ノ所有ニ係ル廣大ノ農地ニ於テハ地代ノ  
點ニ付紛争ノ起リタル場合ニハ必ス仲裁人ヲ選任シテ之カ解決ヲ爲サシムルノ制度  
ナルヲ以テ借地人ハ大ニ其ノ居住ノ安全ヲ得テ今ヤ蘇格蘭ノ荒地中此ノ範圍ノミハ  
土地肥沃ニシテ非常ノ收穫アリト云フ

英國ニハ又一八九六年ノ發布ニ係リ主トシテ産業ノ紛争ヲ仲裁スル法律アリ此ノ  
法律ニ依リ各種ノ産業組合カ組織シタル仲裁院ハ一九〇六年ノ調査ニ於テ其ノ數  
百九十七箇所アリ而シテ一八九七年ヨリ一九〇六年ニ至ル十年間ニ於テ是等仲  
裁院カ和解ヲ試ミテ解決ヲ得タル困難ナル産業紛争事件ノ數ハ實ニ七千二百四十  
八年ニ及ヒ之ニ關係シタル人員(職工)ハ其ノ數百二十五万人以上ニ達シタリ而シ  
テ右七千二百四十八件ノ紛争中單ニ九十二件ノミ其ノ解決前ニ於テ「ストライキ」  
ヲ見タルノミナリト

又今日倫敦ニ於ケル商業上ノ紛争ヲ見ルニ其ノ司法裁判所ノ裁判カ遲延スルカ爲  
ニ金額六万磅以上ノ紛争事件ト雖仲裁人ノ手ニ依リテ著ヤト解決ヲ告グルモノ多  
シト云フ  
(參照) 大正元年九月三十日付在倫敦帝國總領事ノ倫敦仲裁裁判所ニ關  
スル報告

佛國ハ個人主義ノ發達シタル共和國ナレトモ仲裁ハ町村役場内ニ於テ不公閉式ニ  
勸解吏カ調和ヲ謀レリ又商業ニシテ組合組織ヲ有スル者ノ紛争事件ニハ其ノ音強  
制ノ仲裁制度ヲ採用シタレトモ一八五六年ノ法律ヲ以テ之ヲ廢シ今日ニ於テ之ヲ  
商業裁判所ノ管轄ニ移シタリ又佛國ノ工業地ニハ仲裁院ナルモノアリテ雇主ト職工  
トノ間ノ紛争ヲ處理シ居レリ  
白耳義ノ仲裁法ハ全然佛國法ヲ採用シ一八九九年ノ協約ニ依リ仲裁人ノ與ヘタ  
リ決定ハ兩國ニ於テ交互執行スルヲ得ルコトトナセリ

又獨逸ノ普魯西ニ於テハ一八七〇年ヲ以テ仲裁法ヲ發布アリ各町村ニ一人ノ仲  
裁人ヲ置キ總テノ事件ヲ仲裁セシム仲裁人無料ニシテ仲裁附托ハ任意ナリ此ノ法律  
ハ一八九六年「プランズイック」ニ採用サレ又一八八六年「パーテン」ニモ採用セラ  
ルニ至レリ刑事ノ喧嘩及名譽回復等ノ事件ニ於テ仲裁ノ結果曲直ノ判明シタルトキ

ハ曲者ハ一方ノ相手ニ向テ謝罪金ヲ提出スルコトト爲セリ而シテ此ノ謝罪金ノ一部ハ町村ノ收入ニ歸シ其ノ町村ノ慈善事業ノ費用ニ充テシム

伊太利ニ於テハ一八六五年八月二十五日ノ民事訴訟法ヲ以テ仲裁官ノ制度ヲ設定セルニ其ノ效果大ニ見ルヘキモノアリシヲ以テ一八九二年更ニ之ヲ擴張シテ五十「リラ」以下ノ事件ニ付テハ仲裁官ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ許サス五十「リラ」以上百「リラ」以下ノ事件ニ付テハ區裁判所ニ上訴シ得ルコトトセリ而シテ仲裁官ハ法律智識ヲ必要トスル處ナク唯取引上ノ慣習ヲ知り且社會一般ノ信用アル者ナルヲ以テ足ル故ニ公定試驗其ノ他類似ノ試驗ニ合格セル者並以前諸般ノ官吏公吏アリシ者ハ凡テ仲裁官タルノ資格ヲ有シ控訴院長ノ任命スル所ニ從ヒテ仲裁官トナルコトヲ得ヘク但其ノ任期ハ三年ニシテ猶ホ仲裁官ニハ其ノ所屬市町村ヨリ書記廷丁各一名ヲ附屬セシメラル仲裁官ハ當事者本人ノ出頭ヲ命スルノ權ヲ有シ訴訟手續ハ頗ル簡單迅速ナルノミナラス和解ノ費用ハ極メテ低廉ニシテ五十「リラ」以下ノ事件ニ付テハ二十「リラ」四十「リラ」五十「リラ」以下ノ事件ニ付テハ二十「リラ」二十「リラ」サンチム」少額ヲ徵收スルニ止マル以上ノ制度ハ伊國一般ノ歡迎スル所ナリ現今仲裁官ノ總數ハ八千餘名ノ多キニ及ヘリ

其ノ他瑞西(一八八三年)西班牙(一八二〇年)瑞典、諾威(一八八七年)等ニモ佛國法ト似タル仲裁法アリ

米國紐育州及「マサチユセツ」州ニハ州立仲裁院ナルモノアリ主トシテ産業上ノ紛議ヲ仲裁スルモノニシテ若産業上資本主ト労働者トノ間ニ紛議起リタルトキハ直ニ其ノ場所ニ出張シテ事件ノ調査ヲ遂ケ而シテ後チ之ヲ解決ヲ與フルモノナリ

其ノ他英國諸制度ノ唯一試驗場ノ觀アル「ニージーラント」ニ於テハ土地ノ紛爭ニ付夙ニ仲裁法ヲ採用シテ世界ニ於ケル最完備セル理想的土地制度ノ實現ヲ見又資本主ト労働者トノ紛爭ニハ必ス強制的仲裁法ヲ適用セリ

以上略敘スル如ク歐米ノ諸國一トシテ今日仲裁法ヲ採用セラル所ナク之ニ依リテ人事萬般ノ紛議事件ヲ解決シ以テ當事者雙方ノ感情ヲ融和シ社會ノ秩序ト平和トヲ保チ旁ノ訴訟入費ト無益ノ時間トヲ省略シ得テ最羨望スヘキ圓滿ノ效果ヲ呈セリ

德義ト常諺トヲ加味セル裁判ハ一ニ仲裁ニ依リテ得ラルルナリ徒ニ權利義務ヲ基礎トセル法律ヲ唯一ノ城壁トシテ人類相爭フハ決シテ眞ノ文明社會ニ於テ稱贊スヘキコトニハ非サルナリ既ニ法律ノミニ依ラスシテ他ニ人事ノ紛爭ヲ圓滿ニ解決スルノ方法アリトセハ吾人亦何ヲ苦ムテカ手續ノ煩雜ニシテ費用ノ多額ナル司法裁判ノミニカ處決ヲ求ムルノ愚ヲ爲サムヤ宜シク能フヘキ範圍内ニ於テ諸般ノ紛爭ヲ平和ノ解決手段ニ依リ求ムルヲ以テ文明ヲ標榜セル吾人人類間ノ義務ニシテ亦其ノ誇リトスル所ナラム彼ノ國際間ニ於テスラ平和運動ノ熾ナル今日瑣々タル個人ト個人、團體ト團體トノ紛爭ノ如キモノニシテ仲裁ヲ以テ其ノ解決ヲ見難キ理由アリマヤ

見ヨ般鑑近キニアリ週年我カ東京市ノ交通機關ノ上ニ於テ吾人ノ最恥辱トスル一大悲慘事ヲ現出シ尋テ日本郵船、橫須賀船渠等ニ於テ不穩ノ事實ヲ暴露セシニ非スヤ又一方ニ於テハ橫暴ナル地主ハ薄弱ナル借地人、小作人ニ對シ惡辣ナル誅求ヲ爲シ茲ニ社會上最憂懼スヘキ階級間ノ怨恨ト貧富ノ懸隔トヲ醸成セムトシツツアリ尙社會ノ闇黒面ニハ種々ノ惡漢跳梁跋扈シ人ノ弱點ニ乘シテ脅喝ヲ加フル等ノ害毒ヲ取テスル者鮮シトセス

我カ國今日ノ民間ニ於テ當事者雙方ノ間ニ立チ仲裁ノ勞ヲ執ル者亦ナキニ非スト

雖其ノ多クハ所謂三百代言ニシテ其ノ事件ノ結局ニ至リ裁判所ニ於テ爭ヒヨリ以上多大ノ費用ヲ支拂フニ至ル者往々之レ有ルヲ見ル 刑事ノ裁判ニ對シテハ執行猶豫ノアルアリト雖民事ニ付テハ敗者直ニ強制執行ヲ受ケ此ノ間些ノ猶豫アルニアラス其ノ怨恨ニ泣ク者決シテ世間ニ渺ナカラサルニ非スヤ殊ニ高利貸ノ爲ニ非常ノ酷薄ニ遇ヒ遂ニ產ヲ傾ケ親子夫婦爲ニ離散ノ悲境ニ沈淪セシ者亦世間ニ其ノ例甚多キヲ見ルニ非スヤ

我カ國古來親族間ノ紛議ハ成ルヘク親族間ニ於テ解決シ世間ノ外聞ヲ憚カルノ風アリ從テ其ノ事件ヲ訟廷ニ爭フカ如キハ所謂絕對絶命ノ場合ニ顯シテ之ヲ爲スノ慣習ナルモ法律ノ規定ハ如何セム親子ト雖互ニ法廷ニ立チテ相爭ハサルヲ得サルヲ以テ止ムナク之ニ從フノ如キハ畢竟法律ノ缺點ニシテ大ニ我カ國ノ美風良俗ヲ破壊スルモノト云フヘシ是等ノ紛議事件ニ對シテハ殊ニ仲裁制度ノ適當ナルヲ感セスムハアラス

今ニシテ能ク是等ノ弊害ヲ豫防シ其ノ平和的解決方法ヲ馴致シ置クニアラスムハ他日社會事情ノ益複雜トナリ階級間ノ怨恨ト懸隔トカ愈擴大ナルニ及テハ遂ニ如何トモスヘカラサルノ情態ニ陥ラムコト火ヲ賭ルヨリモ明カナリ況ヤ是等ノ原因ヨリ起ル階級間ノ訴訟ハ今ヤ漸ク健訟ノ傾ニ流レ司法裁判所ノ混雜ト遲延トハ益顯著トナリツツアルニ於テテヤ

我カ國ハ由來家族主義ヲ以テ基礎ト爲ス故ニ個人主義ノ國ニ比ストキハ其ノ國民ノ關係最圓滿調和ナルノ點ニ於テ吾人ノ大ニ誇ルニ足ルモノアリトス吾人ハ今ヤ我カ國ノ前途ニ鑑ミ海外法治國ノ趨勢ヲ觀察シ亦我カ古來ノ習俗ニ酌ミ將タ深ク現時ノ情態ヲ考慮シ我カ國ニ仲裁制度ノ必要ヲ認ム即チ茲ニ本案ヲ提出スル所以ナリ

○松田源治君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○副議長(關直彦君) 御異議ガナケレバ松田君ノ動議ノ通り決定ヲ致シマス、次ハ日程第八 私立學校用地免租ニ關スル法律案 第一讀會ヲ開キマシテ議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、久保通猷君

第八 私立學校用地免租ニ關スル法律案(久保通猷君 第一讀會 提出)

○副議長(關直彦君) 久保通猷君御出デハアリマセヌカ

○松田源治君 提出者ガ今日出席シテ居ナイヤウデアリマスカラ延期ヲ願ヒマス

○副議長(關直彦君) 延期ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(關直彦君) ヲレデハ延期ニ決シマス、報告ガアリマス、チヨット私カラ御報告ヲ致シマス、各委員ノ氏名ハ公報ニ依テ御通知ヲ致シマス、又次ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知ヲ致シマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタウゴザイマス、今日ハ是デ閉會ヲ致シマス

午後三時二十四分散會